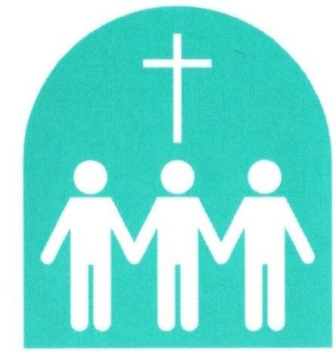
祈りのカレンダー
2001 Special Edition

日本聖契キリスト教団
設立50周年記念誌



SINCE 1951

50th
ANNIVERSARY

50周年記念誌発行に寄せて

「キリストにある自由と
拡大する共同体をめざして」

日本聖契キリスト教団
代表役員 勝本 正實

「キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。」エペソ4章16節

私たちの教団が、米国カベナント教会から派遣された宣教師の先生と御家族を通して福音を聞いた時以来、50年の月日が経過しました。戦後間もない時であり、まだ戦争の痛手が残り、生活することに懸命な時代でした。異国の地での困難の中で語られた福音を、聞いた人たちの中から信徒の人たちが起こされ、日本人の教職者の方たちも導かれて教団は歩み始めました。関東地方を中心に福音宣教の業が進められ、1951年には聖契教団が設立されるに至りました。

ここに刻まれた教団50年の歩みは、これまでの人々の労苦と祈りを表わしていると共に、支えてくださった神の導きをも示しています。50年誌には教団の歴史と共に、カベナントの信仰の特色と、生み出された諸教会が紹介されています。これまでに撮影された多くの写真は、CD-ROMを用いて皆様に提供されています。

聖契教団の一つ一つの教会が遣わされている所で証ししていくことの大切さと共に、教団としてのまとまりと協力の大切さを 思います。この記念誌が教団内の学びや、洗礼、転入会の場において、さらには他教会への紹介のためにも大いに用いられていくことを願います。記念誌を発行するにあたり、執筆や編集をしてくださった方々に感謝します。

51年目からの教団の歩みが豊かに祝され、新たな恵みと感謝を加えることができることを願いつつ。

50周年記念誌発行に寄せて

第一部　聖契教団50年の歩み

第１章 そのルーツを求めて

第２章 日本聖契キリスト教団の50年史

第３章 信仰の主張
「わたしたちの教会」

第４章 日本聖契キリスト教団年表

第二部　祈りのカレンダー

第１章 日本聖契キリスト教団

「そのルーツを尋ね求めて」

昨年、キリスト教界は「第三ミレニアム」が到来したことを祝いました。そして、今年、世界は21世紀に突入したことをお祝いしています。

このような世界史的節目において、日本聖契キリスト教団が創立50周年を迎えたことは、何と不思議な巡り合わせでしょうか。歴史家ならずとも、記憶に留めやすいのではないでしょうか。

ルーツを尋ね求めて

日本聖契キリスト教団の信仰のルーツは、その生みの親である北米の福音カヴェナント教会(The Evangelical Covenant Church)にあります。その呼称に銘打たれているように、この教会は「福音主義的」教会です。

この言葉には、「自由主義」に対抗する意味もさることながら、19世紀のヨーロッパやアメリカに生じた信仰の霊的覚醒とのつながりが強く意識されています。次の「カヴェナント」という名称は最も一般化したわたしたち自身の呼称で、甦られたイエス・キリストへの信仰による再生と新しい生についての共通の経験を分かち合う者たちを互いに結び合わせるという意味を持った「契約」を表しています。

もちろん、このような特徴を持った教会も、真空状態のような中に突如生まれた教会ではなく、やはりそのルーツを遡らせて求めることが出来ます。それは、1878年に設立されたスウェーデン聖約教会(Svenska Mission Forbundet)です。北米から、一挙に北欧スウェーデンへと遡って行きます。

この国における教会事情は、多少複雑です。ルターによる宗教改革後、間もなく国王によってそれ以前のローマ・カトリック教会を廃してプロテスタントのルター派が導入され、国教会となって国民に浸透していったのですが、やがて17世紀には本場ドイツと変わらず、教義論争の果て、信仰の生命性を失ったかのような、いわゆる「死せる」正統主義教会となって行きました。

しかし、この教会の中で生まれ育ち、この教会に対する改革運動に加わりながらも、やがてはこの教会から分離・独立するに至った、敬虔主義や信仰覚醒運動の影響を受けた人々によって、19世紀末、「国教会」に対する「自由教会」として、スウェーデン聖約教会が設立されたのです。

ところで、かの「敬虔主義」とはドイツに生まれたルター派教会固有

の信仰の生命運動で、シュペーナー(1635-1705)の小著『敬虔なる願望』(1675)をその発端として始まりました。17世紀末から18世紀まで、フランケ(1663-1727)やツィンツェンドルフ(1700-1760)などの広範な諸活動によりさまざまに展開・発展し、それはドイツに留まらず広範な影響をヨーロッパや世界の各地に及ぼして行きました。

また「信仰覚醒運動」は18世紀半ばの後期敬虔主義とも相まって、ヨーロッパ各地やアメリカに広く伝播して行きました。これには、ジョン・ウェスレー(1703-1791)のメソジスト運動なども含まれます。すでにお分かりいただけると思いますが、スウェーデン聖約教会はルター派正統主義教会に遡ります。

そして、それは宗教改革やローマ・カトリック教会、さらにはエルサレムに生まれた初代キリスト教会にまで遡らざるを得ないことになります。しかし、わたしたちの旅は、わたしたちの教会を最も特徴づけることになった、スウェーデンにおける敬虔主義や信仰覚醒運動などの影響を受けたその自由教会運動までとすることにしましょう。

教会的特徴

わたしたちの教会の特徴は、こうした歴史的経緯からそれぞれの教会のさまざまな特徴を多かれ少なかれ受け継いだものだと言えます。

何も受け継がず突如生まれたものはないのですから、自覚するとしないとにかかわらず、あるいは時には反発・否定・対立さえしているにもかかわらず、歴史的に遡ることの出来るものからさまざまな影響を受け継いでいるのです。したがって、歴史的に教会のルーツを尋ね求めようとするとき、わたしたちはイエス・キリストによって創設された教会の世界大の歴史の一端を担わされているのであって、単純に他の教派を否定することは出来ないのではないでしょうか。

したがって、わたしたちの教会はその特徴として、プロテスタントのルター派教会的な教理的・神学的かつエキュメニカルな傾向、敬虔主義的な特徴としての「再生」やキリスト者としての敬虔な生活の強調、信仰覚醒運動的な特徴としての「伝道」の強調、「自由教会」運動の特徴としての内面的信仰の自由や制度的な自由の強調などを挙げることが出来るでしょう。

これらは、「カヴェナントの諸原則」や「カヴェナントの主張」にまとめて表明されています。

スウェーデンにおけるカヴェナント教会の誕生

そもそも北欧スウェーデンの地に、いったいどのようにドイツの敬虔主義やイギリスの信仰覚醒運動が伝えられたのでしょうか。

この質問に答を出そうとするとき、現代のように便利で迅速な交通手段のない当時であってもやはり、ヨーロッパには驚くほど活気に満ちた精神的交流があったということを見逃してはなりません。それは、盛んに出版されたいわゆる敬虔主義や信仰覚醒運動の指導者とその影響を受けた人々の信仰促進文学と言われるさまざまな著書、また彼らの文通や伝道旅行などによる人的交流によってなされました。

ツィンツェンドルフは、伝道のため、スウェーデンを訪れたことがありました。19世紀に入ると、スウェーデンの工業計画のために多くのイギリス人労働者が雇われて来ました。

そうした人々のためにストックホルムでイギリス・メソジスト教会の牧師として働いていたジョージ・スコットは、やがて彼らの二世や三世のためにスウェーデン語で説教する副牧師を招かねばならなくなりました

招かれたのは、カール・ルセーニウス(1816-1868)でした。この人が、スカンディナヴィアの国々やアメリカの人々によって読まれた、月刊誌「ピエティステン」(敬虔主義者たちの意)を長年編集出版したのです。彼の死後、ルター派正統主義教会の聖職者であった、ヴァルデンストレム(1838-1917)がその仕事を引き継ぎ、さらに多くの人々に敬虔主義の信仰や生活スタイルを伝えたのです。このヴァルデンストレムが「ピエティステン」に載せた説教によって引き起こされ「贖罪論論争」を大きなきっかけとして、スウェーデンのルター派正統主義教会の中に敬虔主義に傾倒する人々とそうではない人々との亀裂がはっきりとするようになり、1878年、ついにスウェーデン聖約教会が設立されるに至ったのです。

アメリカへの移植と福音カヴェナント教会の誕生

では、アメリカにおけるカヴェナント教会の誕生は、上述のようなスウェーデンのそれとどのようなつながりがあるのでしょうか。アメリカにおいてカヴェナント教会が設立されたのは、1885年ですから、スウェーデンのそれのわずか7年後ということになります。ですから、これは主に伝道による結果ではなかったのです。スウェーデンとアメリカそれぞれのカヴェナント教会の設立は、ある程度連動していました。設立に至るまで、すでに両者の間にはかなり長い歴史と親密なつながりがあったのです。

それは、スウェーデンからアメリカへの移民によって生じていたの

です。1861年から1920年の60年間に、およそ百万人のスウェーデン人がアメリカに移民したと言われます。

これは、当時のスウェーデン人口のおよそ1/7でした。1840年代の移民は、経済的誘因が主で、宗教的なそれを持たないものでしたが、1850年代からは、宗教的誘因が著しくなりました。それは、当時スウェーデンでは、ルター派正統主義教会による敬虔主義や信仰覚醒の運動に対する抑圧や禁止が度々あったことによるものです。

それを逃れて、多くの人々が信仰の自由を求めてアメリカに移民して来たのです。そうした多くのスウェーデン人たちが、国教会のないアメリカの各地にスウェーデンと同じようなルター派の教会を設立しましたが、やがてスウェーデンで生じたような対立が彼らの間でも生じ、分離と独立、連帯と連合が起こり、先のようなアメリカにおけるスウェーデン系移民によるカヴェナント教会の設立に至ったのです。

その最初の委員長は、靴屋であった、カール・ビョーク(1837-1916)でした。

ついに日本へ

福音カヴェナント教会は、設立後間もなく最初の海外伝道をアラスカで開始しました。続いてすぐ、中国伝道が開始されました。これは、「カヴェナント」という名称には、信仰の交わりを生み出す契約という意味に重きが置かれてはいたものの、宣教の使命を共に担うことも含まれていたことも表しています。そして、あの共産化によって、中国伝道という歴史ある偉大な使命が終わりを告げると共に、戦後間もない日本での新たな伝道の開始へとつながってくることになるのです。

（文責・新秋津キリスト教会　牧師　梅田與四男）

第２章 日本聖契キリスト教団

５０年の歩み(1951年-2001年)

(教団前史)

17世紀にドイツで起こった敬虔主義がやがてスウエーデンに至り、霊的に弛緩していたルーテル国教会の中に覚醒をもたらしたが、その結果のひとつとして自由教会が生まれた。「ミッション・フレンド」と呼ばれ、1878年に組織されたスウエーデン・カヴェナント教会は、1890年代に、ロシア、中国、アフリカのコンゴなどに宣教活動を開始した。

スウエーデンから米国へわたった「ミッション・フレンド」の移民グループは、1885年に米国カヴェナント教会(正式なタイトルは、スウエーディッシュ　エバンジェリカル ミッション カヴェナント チャーチ オブ アメリカ)を組織し、1890年には中国へ宣教師を派遣した。

日中戦争終結の3年後の1948年1月、三人のカヴェナントの宣教師が、トラックに同乗していた中国人たちの願いも空しく、武装した賊に射殺され、殉教の死を遂げた。この悲惨な事件と1949年に起きた共産主義革命は、米国カヴェナント教会による58年間の活動に終止符を打たせ、宣教師たちを現地から引き上げさせ、香港へと退くことを余儀なくさせた。

米国カヴェナントの日本宣教開始

中国伝道の引き揚げ完了数ケ月前の1949年1月23日バート・バーメ師夫妻は、アライアンス・ミッション(TEAM)と協力して宣教にあたるため、東京に到着した。同年の米国カヴェナント教会の年会は、中国宣教閉鎖に伴い、代わりの宣教地を選択する権限を外国伝道部に与えたが、それまでは、日本での宣教活動を始めるという特別な計画は持っていなかった。調査の結果、香港に集合していた宣教師たちは、日本での宣教活動を開始するよう米国カヴェナント教会に推薦し、9月に承認され、6名の宣教師、エドワード・ネルソン師、オテリア・ヘンドリックソン師、ルース・エドランド師およびウイリアム・リグマーク師夫妻が来日し、アライアンス・ミッションの義務から解放された先着のバーメ師夫妻に加わった。こうして日本におけるカヴェナントの宣教は始まったのである。

1949年11月25日、日本カヴェナント宣教会が正式に組織され、最初の会議を世田谷区松原に購入した宣教師館で開き、カヴェナントの働きを、必要の最も多い地域に、という見解で一致した。主のみこころを求めて数ケ月が祈りに費やされたが、その間も宣教師たちは日中は語学研修、夜はバイブル・クラスで多忙であった。同年のクリスマス・イブの朝、中国行きを目指しエール大学で語学研修をしたメルボルン・メトカーフ師夫妻が横浜に貨物船で到着し、翌年ハリー・エンゲマン師夫妻が来日した。

日本カヴェナント教会の設立

○50年代

やがてカヴェナントの活動は、主の導きの中に東京、神奈川、新潟・群馬の三地区に分かれて展開していった。

1.東京地区

東京での働きは、戦時中、ホーリネス系の信仰のゆえに獄中経験をした土屋顕一師の助力を得て始まった。宣教会は同師夫妻のために世田谷区に小家屋を提供し、そこで日曜学校、バイブル・クラスと礼拝が1950年から定期的に7年間続けられ、その間、1951年4月に40名の会員をもって東京カヴェナント教会が組織された。

1951年5月3日、東京および後述の国府津・松田・平塚・酒匂・長岡の6教会からの8名の代議員プラス全宣教師の出席によって「日本カヴェナント教会」設立式が東京神田のYWCAで行われた。初代委員長に土屋顕一師、副委員長に堀川勇師、石川光男・鈴木良平・三上武二郎三氏が信徒役員に選出された。

1952年10月20日、日本人伝道者養成を目的とした聖契神学校が目黒で開校した。校舎は伝道集会、日曜学校、バイブル・クラスなどに用いられ、やがて目黒教会が1954年に組織され、初代牧師として校長のリグマーク師が約2年間奉仕した。あい前後して練馬、代田橋、高田馬場、祐天寺など数ケ所で集会が開かれていった。

2.神奈川地区

この地区のカヴェナントの働きは、小田原市の国府津教会からの宣教会への呼びかけで開始された。同教会はホーリネス教団から分離して単立となっていたが、1950年7月、新会堂を献堂するとカヴェナントの交わりに加わった。初代牧師の堀川勇師は、戦時中、再臨信仰のゆえに政府の弾圧に会い、牧師の資格を剥奪され、農作業に従事することを強いられ、書物はすべて没収、焼却されただけでなく、教会

員も棄教を命じられたのであった。戦後に再出発した同教会は、中国東北部(旧満州)で神学教育を受けた松元茂師を副牧師として招聘し、開拓伝道の結果、1951年1月、松田教会が誕生。同時に三上・臼井両氏の家庭集会から平塚教会も組織されたが、これに先立ち国府津の堀川師と酒匂在住のエンゲマン、ジョンソン、メトカーフ三師夫妻、クリスターソン師による活動がなされていた。1956年10月に小田原教会が設立されたが、会員の大半は国府津からの転籍者であった。翌年6月には私立幼稚園を借りてクリスターソン、リンストローム両婦人宣教師により茅ケ崎伝道が始まった。

3.新潟・群馬地区

カヴェナントの働きを開始するために、1950年12月、メトカーフ・リグマーク両師夫妻は、新潟県長岡市へ移住したが、市当局や市民の熱烈な歓迎を受け、最初のクリスマスには約300名が宣教師館に押しかけたという。他のカヴェナント教会から地理的に孤立していたことから、一時は他の団体に活動を委ねようか、との話がでたが初期のヴィジョンに堅く立った。

1951年秋、群馬での活動は、来日中の米国カヴェナント教会のアンダーソン委員長を迎えて箕輪町の高校体育館で集った800人への宣教で開始された。1953年3月には通訳をつとめた石川光男師宅で箕輪教会が誕生したが、シカゴのノースパーク神学校留学中に交通事故で召されたことから1955年春に閉鎖された。同年初めにバーメ師夫妻により渋川で、1956年10月にはジョンソン師夫妻による高崎での開拓伝道がそれぞれ開始された。

1956年11月に日本カヴェナント教団と名称変更がなされる一方で、目黒教会の聖契神学校からの移転(1958/11)、高崎・日吉両教会組織(1959/3)、神学生チームの天幕伝道による淵野辺伝道(小川要宅)開始(1959/4)、小田原教会献堂(1959/12)がそれぞれ行われた。教団全般の動きとしては、プロテスタント宣教百年記念大会(JPC)への協力参加・新年・青年修養会の聖契神学校や伊香保温泉「静観荘」および夏季修養会の箱根芦の湖畔での開催、米国カヴェナント教会(ECCA)の世界伝道部長R・ハンソン師とM・エンゲブレットソン委員長の来日と特別集会、世界的に著名なポーロ・リース師(ミネアポリス第一カヴェナント教会牧師)の著書「神にゆだねよ」「主のみ顔」のいのちのことば社による翻訳出版などが行われた。ちなみに同師は日本ケズウイック・コンベンションの主講師としてキリスト教界の尊敬を集め、長年にわたり奉仕された。

○６０年代

高度経済成長期を迎えた60年代は、教団にとっての激動期でもあった。リーダーシップは徐々に宣教師から日本人教職へと移って行くが、相互関係は必ずしも円滑に行っていたとは言えなかった。他教団からの教職の「出入り」がひんぱんにあり、63年には創設当時から労された堀川師が、教団と神学校の運営方針をめぐる宣教会との意見の対立から辞任し、続いて三名の教職が倫理的な問題を起こして教団を去るという試練の嵐が吹いたのである。

その一方で寒川、前橋、鶴見の各地で伝道が開始され、小田原、高崎、平塚、寒川、長岡、茅ケ崎、目黒、酒匂と献堂ラッシュが続いて行った。

青少年伝道の有力な手段としてのバイブル・キャンプ場を探し求めていた宣教会は、東京神田の喫茶店での一杯のコーヒーがきっかけとなるという奇しい導きのもとに、群馬県赤城山頂のダン・ロッジを63年に買い取り、翌夏から諸キャンプを教団第二の事業活動として実施するようになり、入信する兄姉が与えられる祝福にあずかったのであるが、長年にわたり地元の宣教師・牧師・教会員の犠牲的な奉仕があったことを忘れてはならない。

○合一宣言による日本聖契キリスト教団の誕生

67年4月、宣教会と教団がひとつになって「日本聖契キリスト教団」が誕生した。「世界宣教の友献金」によって新築なった聖契神学校本館で開かれた年会席上で来日中のECCAの世界伝道部長R・サーヴィン師による「合一宣言」がなされたのであった。従来の協力連絡機関であった行政委員会が解消され、代わって責任役員会が発足して、実質的な教団運営にあたることになった。

60年代から続いてはいたが、主として英語を教えることを通して福音を分かち合ってほしいとの各教会からの要望に応じて、この年には短期宣教師制度が新たにスタートし、米国カヴェナント教会の支援により現在に至るまで多数の青年男女が短期宣教師として来日し、一ないし二年の犠牲的な奉仕にあたってくださった。その中から後に正式に宣教師としてティム・ジョンソン師、カールソン師夫妻、ヒューズビー師夫妻とリンドワーム師が戻って来られ、現在まで奉仕を続けておられる。

69年からはECCAの財政的援助を徐々にカットし、5年後には全面自給・自立となる目標を設定して第一歩を踏み出した。

○７０年代前半

60年代後半から70年代初めにかけてECCA立のノースパーク神学校

教授陣があいついで来日し、特別講義や研修会が行われた。また宣教師の人事異動や教団とECCAとの間で協定書の作成があった。(70/04)
71年4月の教団年会で代表役員に石田和男師が選出されたことで日本人へとリーダーシップが移って行った。この年には全米カヴェナント婦人会の献金による聖契神学校別館の献堂また鶴見教会、寒川牧師館の献堂が行われたが、小田原教会が諸般の事情により、15年間の活動に終止符を打って閉鎖された。秋には教職者退職金制度が発足し、翌年春から 深田寿美子姉が教団事務員として奉仕を開始された。74年には教会と教職の家族はかなりの犠牲を強いられつつも計画通り自給化を達成した。

○７０年代後半

各教会による伝道集会は毎年定期的に行われていたが、教団あげての行事としては初めての集中方式伝道(ダイナミック・クルセード)が、役員研修会と信徒訓練会を開いて準備をした上で、1975-76年にかけて日本キリスト宣教会の松見睦男師を主講師として、神奈川教区4教会と北部教区3教会が参加して行われ、受洗者の大幅増加という成果をあげることができた。教会成長セミナーやベテル聖書研究講習会などの超教派の集いに教団教職が多数参加し、特に後者は諸教会でも実施された。

1977年11月には初めての試みとなった全カヴェナント世界伝道会議がメキシコシティで開かれ、日本からも米国カヴェナント教会の招待により石田・伊藤・日吉3師が参加し、研鑽と分かち合いの祝された集いを持った。長年労された中根れん師、上原義次師が辞任されて教団から離れて行った。78年には聖契神学校が創立25周年を祝ったが、その時点で日本人教職10名のうち9名が聖契の卒業生であった。

○８０年代

70年代後半から80年代にかけては、松田、湘南台、鶴見、城山、長岡の5教会がそれぞれ一ランク・アップという種別変更のラッシュが続き、また湘南台、寒川教会の新会堂の献堂式が行われた。

戦後の混乱期に来日し、言語・習慣・考え方の相違や子弟の教育さまざまな困難や誤解に直面しつつも日本人を愛して労された宣教師も、規定に従い「定年」を迎え帰米されるようになった。引退宣教師の第一号となったクリステンセン師の夫人は間もなくガンで主のもとに召され、88年秋には同師もガンで召天されたが、子息のお話しによると、病床にありつつも20名を超える方たちを、主にある救いへと導かれたとのことである。ジョンソン宣教師は、城山教会での礼拝直後に心筋梗塞になられて召天されたが、先生の遺志が生かされてすで

に教団の第三番目の施設となっていた小田原クリスチャン・センター(O.C.C)の新しい建物の献堂式が行われたのは、一年後の1983年の2月であった。それ以来,英語教室を中心にさまざまな活動を城山教会と協力しつつ周辺地区にくりひろげている。さらにエンゲマン師夫妻(81年4月)、メットカーフ師夫妻(85年6月)、ジョンソン師夫人(86年4月)、ウエストバーグ師夫妻(87年9月)、レオナルド・ピーターソン師夫妻(93年6月)、リロイ・ピーターソン師夫妻(98年4月)と本国へ帰られる中で、サンドラ・テングウォール(スワンソン)師は、ガンで(94年4月)、聖契神学校初代校長のウィリアム・リグマーク師は、事故で(94年8月)、エンゲマン師はガンで(95年4月)それぞれ主のもとに召されて行かれた。

84年の第一回を皮切りに教団行事として東京、川崎、茅ケ崎と会場を移しながら五回にわたってシングスピレーション(賛美の集い)が開かれ、参加者一同は大いに祝福された。その後も神奈川教区・群馬地区ではこの集いが継続してもたれている。

群馬の広瀬団地、伊勢崎と東京の江古田で開拓伝道のわざが始まったことは感謝なことであったが、その一方で81年9月には神奈川教区の高ケ坂伝道所承認取り消しと、87年1月には、諸般の事情から清瀬教会を閉鎖せざるを得なくなったことは残念であった。

85年6月には教団の産みの親である米国カベナント教会(ECC)設立100年記念祭典がミネソタ州ミネアポリスで盛大に行われ、日本からは27名からなる訪問団が参加し、大歓迎を受けた。また大山・伊籐両師もゲストとして招待され、さまざまな集会で奉仕にあたった。翌年の秋には、、ECC宣教地視察団の一行が初来日し、各教会を訪問されてあかしや交わりのひとときを持ったが、この企画は88年、92年にも実施されたのである。

87年4月の年会では継続審議中だった日本福音連盟(JEA)加盟申請が決議され、まもなく承認された。8月には渋川教会の近藤芳雄師が心不全のため召天された。11月には15年間にわたって教団事務のために奉仕された深田壽美子姉が退職された。なお89年から後任に伊籐操姉がなり、現在に至っている。

88年の教団年会では、既成の単立・南流山教会が、創設期を除いては久しくなかった教団加入を承認され、同じく単立の初石聖書教会が92年に、93年にはさいわい教会がこれに続いた。4月から伊勢崎伝道所が開設され、北部教区の5番目の教会になった。

○９０年代

60年代より続いてきた姉妹教団の聖約と同盟福音の交わりが新たに福音自由が加わって四団体の協議会が開催されるようになり、やがて懇談の回数を重ねつつ、90年代に入って自由福音教会連盟が結成され、さらに具体的には世界宣教局の発足を迎えるに至っている。

90年12月、あらきの伝道所が開設され、93年7月には元クリーニング店を購入改装し、新会堂献堂式が行われた。

91年11月、教団創立40周年記念大会が御殿場東山荘を会場に、国内外からゲストを迎え、「ひとつとなって、この町、そして世界へ」をスローガンに掲げ、さまざまなプログラムを折り込んで盛大に行われ、169名が参加した。

92年3月には、教団最大の規模となったエレベーターつきの茅ケ崎教会の、96年の10月には鐘楼を持った斬新なデザインの新秋津教会新会堂の献堂式がそれぞれ挙行された。また97年11月には赤城キャンプ場チャペル、98年10月には茅ケ崎赤羽根の新チャペル献堂式があいついで行われた。94年2月に第1回教会形成セミナーが実施されて以来、各種のテーマに基づき回を重ねて10回開かれた。教団諸教会の交わりを深め、とりなしあうことを願って「祈りのカレンダー」第一版が95年に発行されるに至り、これも版を重ねて大いに活用されている。96年7月には情報化時代を背景に、教団ホームページが開設された。97年7月に群馬で吉岡伝道所が、98年11月には川崎で中原伝道所がそれぞれ開設された。

長らく教団で奉仕した石田・大山両師がすでに退職し、近いうちにさらに後に続く教職が予定されていることから、世代交代が進むのは明らかになっているゆえ、新たな献身者が与えられるよう祈っていく必要がある。また教会数は増加しているものの、財政面での強化・充実を求めていかなければならない。新ミレニアムを迎え教団のさらなる進歩発展をビジョンを新たにして行きたいものである。

（文責・聖契神学校校長　伊藤淑美）

第３章 信仰の主張
「わたしたちの教会」

信仰を言葉に表すことによって、わたしたちはキリストの教会として存在するようになります。「シモン・ペトロが、『あなたはメシア、生ける神の子です』と答えた。するとイエスはお答えになった。『･･･わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。･･･』」(マタイ16:16-18)と記されている通りです。

はたしてわたしたちは一つの教団として、どのように信仰を表明しているのでしょうか。これは、簡単に答えられる問いではありません。ここに述べられようとしていることは、信仰基準ではありません。わたしたちの教会が重んじている信仰の事柄を来るだけ分かりやすく順を追って述べようとする現時点における一つの試みです。これによってきっと、正しく自らを理解し、また同時に他の人々にも理解してもらうことが出来るでしょう。

信仰の父祖たちの物語

わたしたちの生みの親である「福音カヴェナント教会」(ECC)は、自らを次のように表明してまいりました。すなわち、「福音カヴェナント教会は、プロテスタント宗教改革、スウェーデンのルーテル国教会の聖書教育、そして19世紀の偉大な霊的覚醒において生じた、歴史的キリスト教にそのルーツを持っている。これら三つの影響はこの教会の発展を方向づけるのに大きな役割を果たしており、その特色ある精神を理解しようとするためには、忘れられてはならないことなのである」と。

何よりもまずここには、福音カヴェナント教会が、いかに信仰の父祖たちの歴史的系譜を大切にしてきたかが表現されています。教義の詳細や議論の余地ある神学的主張を明確に表明することよりも、信仰の父祖たちの物語を熱心に語り継ごうとしているのです。その意味で、「わたしたちは使徒的教会」「公同教会」「宗教改革の教会」「福音主義の教会」であると表明しています。もちろん、信仰の内容を軽視しているわけではありません。そうではなくて、むしろいかに信じて生きるかを大切に受け止め、そのような父祖たちの信仰の物語を受け継ごうとしたのです。わたしたちの教会は、さまざまな歴史的信仰告白、とりわけ「使徒信条」を重んじてまいりました。

生き生きとした信仰

「信仰」の表明は、直ちにその内容いかんの問題になります。確かに「信仰」によって、知的理解と同意を求める特定の内容が意味されている場合がありますが、それとともにすべてを賭けて信頼するという意味もあるのです。わたしたちの教会は、何をどのように理解し信じているかということよりも、いかに信頼して生きるかを重視しているのです。

ですから、わたしたちの教会は、三位一体の神へと悔い改めることを大切に考え、信仰によってキリストにあって新しく生まれること、聖霊を自覚的に信頼して生活することを大切にしています。これらは、伝道とキリスト者の育成という使命の基礎となる、信仰義認の教理を敬虔主義的に言い直したものだと言えます。それは、頭脳の信仰よりも、心の信仰を大切にしようとするものです。理解を優先するのではなく、心から信頼することを大事にしているのです。神はわたしたちを人格的な信頼によって交わりに招き入れ、それぞれの信仰生活を通じて、ご自分を理解させて下さるのです。必ずや神は、信頼する心に理解や同意をお与えにやり、さらには服従の喜びをお与えになるからです。

これこそが、わたしたちの教会が大切にしている、生き生きとした信仰、死んだ形式的な信仰ではなく生命のある信仰のことなのです。

聖書への深い関心-「どこに書かれていますか」

このような生き生きとした信仰においては、絶えずみ言葉の主権性が強調されてきました。信仰はみ言葉によってもたらされたのであり、み言葉に基づいているからです。その意味で、かつては聖書の「どこに書かれていますか」という質問がしばしば口にされました。もともとこれは、信条や教義をただ鵜呑みにして、その根拠となる聖書理解があいまいであることに注意を促す合い言葉のようにして用いられていました。

聖書理解は、キリスト教界においてこれまでもそうであったように、今日も議論の的になっています。しかし、わたしたちの教会は広い「解釈幅」を認めて、特定の箇所や字句にこだわって違う解釈を否定・拒絶する狭量な態度をとらないように心がけてきました。それは、救い主であり主であるイエス・キリストに対する個人的な信仰を共有するのであれば、聖書解釈の違いで互いに分裂すべきではないと考えるからです。また、その信仰を支え養うのは、聖書についての特定の解釈ではなく、聖書の霊的ないのちの力だと受け止めているからです。

ですから、聖書の文字にこだわるのではなく、聖書の言葉が心に語りかけ神への信頼と服従をつくり出す、霊的瞬間があることを深く

心に留めているのです。「御言葉が開かれると光が射し出で、無知な者にも理解を与えます」(詩編119:130)とある通りです。その意味で、わたしたちはいつも聖書への深い関心を抱き続けているのです。

信仰の仲間たち-「すべての信者、しかし信者のみ」

二千年に及ぶ歴史において、キリスト教会は分裂をくり返して来ました。望まなかったものであるにしろ、わたしたちの教会も分裂の結果生まれてきました。しかし、わたしたちの信仰の父祖たちは教会の分裂を深く憂い、それを避けるように努めたのです。

彼らがしばしば思い起こしたのは、次のみ言葉でした。「あなたを畏れる人、あなたの命令を守る人、わたしはこのような人の友となります。」(詩編119:63)キリストを救い主また主と信じる者ならば、すべて「友」であると見なすべきだと考えました。そして、もしもこのような信仰において、一緒に教会を建て上げ伝道することを望むなら、誰も拒まなかったのです。

もちろん、キリストを信じない者を教会の一員として迎えることはいたしませんでした。このことが、「すべての信者、しかし信者のみ」によって構成される教会という表現になってきました。

歴史的に見れば、分裂はしばしば聖書のさまざまな解釈の相違から起こってきました。そうした見解の相違が、福音カヴェナント教会の中に危機的状況をもたらし、交わりが危険にさらされた時があったようです。しかし、議論の余地のあるどのような主題においても、聖書の根本的真理を否定しないならば、さまざまな見解の自由を認め、分裂を避け、交わりを保ったのでした。

キリスト者の自由

「キリストにある自由は、カヴェナント教会における根本的な生活原則である」と主張されています。この「自由」の原則は、わたしたちの教会における優れた信仰的遺産です。

これは、政治的あるいは制度的な自由としてよりも、信仰による霊的な自由あるいは神学的な立場や見解における自由として重きが置かれてまいりました。パウロがその書簡の中で論じているように、罪の力からの解放に基づく福音的な「自由」です。さばきへの恐れをもたらす律法からの「自由」です。また、放縦や自己主張に陥らない、「自由」の意味の適切な理解が求められています。愛における「自由」です。

もちろん、これは他者に迎合するのではなく、自分の確信に堅く立ちつつ、他者の立場を認めることです。ですから、この「キリストにある自由」という「生活原則」を生かしていくためには、キリスト者個々

人が真の意味で福音的な自立と成熟を目指していく必要があります。

この「自由」の原則のゆえに、必ずやわたしたちの教会は21世紀のキリスト教界に意義深い発言と貢献をなし得るでしょう。なぜなら、21世紀のキリスト教界は、和解と共生、自由と一致を求めていかなければならないと考えるからです。

伝道とキリスト者の育成

わたしたちの教会は「絶えず伝道することによってのみ『福音的』であり得る」と考えてきました。キリスト者と教会が生き生きとした信仰の生命を保持し続けるために礼拝が不可欠であるように、「福音的」であるためには伝道の使命を果たすことが不可欠なのです。その意味で、わたしたちの信仰の父祖たちは教団設立後間もなく、国内外を問わず、宣教師を派遣しはじめたのです。

また、カヴェナント教会が「嬰児洗礼」を執行し続けてきたのは、キリスト者の育成に対する強い使命感からであると思われます。礼拝と伝道が切り離せないように、伝道と教育も不可分の使命です。世の終わりまで、わたしたちの教会はこの使命を真剣に受け止め、担い続けることでしょう。

わたしたちの教会は、日本においてはもちろんのこと、アジア、そして世界において、実に小さな群れに過ぎません。しかし、上述しましたようなわたしたちの教会的特徴は信仰の父祖たちのすばらしい遺産であり、21世紀の教会形成と世界宣教において非常に重要な意味を持つことになるでありましょう。これらをしっかり受け止め、確信をもって、新たな世紀におけるわたしたちの教会の使命に向かって前進いたしましょう。

（文責・新秋津キリスト教会　牧師　梅田與四男）

第４章 日本聖契キリスト教団年表

1948年 1月 米国福音ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ教会(ECCA)の中国派遣宣教師3名殉教死
1949年 1月 米国福音ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ教会(ECCA)最初の宣教師ﾛﾊﾞｰﾄ・ﾊﾞｰﾒ師
夫妻来日
9月 米国福音ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ教会(ECCA)年会、日本宣教開始を承認。
E.ﾈﾙｿﾝ師、O.ﾍﾝﾄﾞﾘｯｸｿﾝ師、R.ｴﾄﾞﾗﾝﾄﾞ師W.ﾘｸﾞﾏｰｸ師夫妻来日
11月 日本ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ宣教会設立
(東京世田谷松原町・宣教師館)
12月 M.ﾒﾄｶｰﾌ師夫妻来日

1950年 H.ｴﾝｹﾞﾏﾝ師夫妻来日
1950年 7月 国府津教会献堂、ｶｳﾞｪﾅﾝﾄに加入
9月 酒匂伝道開始
12月 長岡伝道開始
1951年 1月 平塚、松田両教会組織
4月 東京ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ教会組織
5月 日本ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ(聖契)教会設立(東京神田YWCA)
1952年 6月 松田教会献堂
7月 日本ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ教会宗教法人化
10月 聖契神学校開校(東京目黒)
1953年 1月 第一回新年修養会開催
3月 箕輪教会組織(群馬)
1954年 3月 目黒教会組織(聖契神学校内)
1955年 3月 箕輪教会、教団離脱
渋川伝道開始
8月 第一回夏季修養会開催(箱根芦ノ湖畔・成渓大学道場)
1956年10月 高崎伝道開始
小田原教会組織
11月 日本ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ教団に名称変更
東京練馬、代田橋、高田馬場、祐天寺と横浜日吉に伝道開始
1957年 5月 松元茂師授按第一号(教団臨時年会)
6月 茅ヶ崎伝道開始
12月 東京ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ教会献堂
1958年 6月 東京ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ教会、教団離脱
11月 目黒教会、聖契神学校内より移転
1959年 1月 ﾌﾟﾛﾃｽﾀﾝﾄ宣教百年記念・新年修養会開催(伊香保温泉)
3月 高崎・日吉教会組織
4月 ﾎﾟｰﾙ・ﾘｰｽ師著「神にゆだねよ」翻訳、出版

（山口 昇訳 いのちのことば社）
4月 淵野辺伝道開始（小川 要兄宅）
10月 聖書信仰運動（J.P.C.）東京大会に教団参加、協力
12月 小田原教会献堂

1960年 8月 寒川教会伝道開始
1961年 2月 ECCA世界伝道部次長ﾗｯｾﾙ・ｻｰｳﾞｨﾝ師初来日
5月 東京ｸﾘｽﾁｬﾝ・ｸﾙｾｰﾄﾞに教団参加、協力
1962年 4月 第一回全ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ教職者大会開催（岡山・聖約教団）
9月 高崎教会献堂
1963年 4月 松元茂師、協力宣教師として台湾派遣
8月 前橋伝道開始
11月 平塚教会献堂
12月 赤城山ｷｬﾝﾌﾟ場献堂
1964年 6月 鶴見伝道開始
6月 寒川教会献堂
7-8月 諸ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｷｬﾝﾌﾟ開催
（赤城ｸﾘｽﾁｬﾝ青年荘）
8月 長岡・平塚・小田原・松田4教会、日本ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ教団を離脱し、
日本聖契ｷﾘｽﾄ教団を設立
10月 長岡教会献堂
1965年 4月 行政委員会発足（教団・宣教会との協力連絡機関）
9月 茅ヶ崎教会献堂
11月 ECCA世界伝道部長ｱｰﾃﾞﾝ・ｱｰﾑｸｳｲｽﾄ師初来日
12月 太平洋放送（PBA）のｽﾎﾟﾝｻｰとなる
12月 茨城鹿島に土地購入
1966年 9月 目黒教会献堂
10月 鶴見教会組織
1967年 4月 聖契神学校本館献堂
4月 日本聖契ｷﾘｽﾄ教団（NSKK）を設立、
日本ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ宣教会と合一宣言
4月 教団責任役員会発足
1968年 6月 酒匂教会献堂
12月 神奈川教区7教会共同墓地購入（1区画5基 富士霊園）
1969年 3月 ECCA委員長ﾐﾙﾄﾝ・ｴﾝｹﾞﾌﾞﾚｯﾄｿﾝ師、ｱｰﾑｸｳｲｽﾄ師と共に来日
（聖契神学校卒業式説教）
3月 東京ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ土屋顕一師召天
4月 ﾉｰｽﾊﾟｰｸ神学校教授ｳｴﾚｰﾈﾙｿﾝ師来日（特別講義）
9-10月 特別児童伝道大会（ｳｲﾗｰﾄﾞ・ｸﾞﾗﾝﾄ氏夫妻来日）
12月 ECCAよりの援助金打ち切り目標を1975年度と教団責任役員
会で決定

1970年 2月 ECCA訪問のため、教団代表として石田和男師渡米
4月 ECCAとNSKK間の協定書作成
4月 靖国神社国家護持法案に反対決議(教団年 会)
6月 ﾉｰｽﾊﾟｰｸ神学校教授ｱｰﾙ・ﾀﾞｰﾙｽﾄﾛﾑ師来日(特別講義)
9月 松元茂師、台湾で召天
1971年 8月 「ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ史」(聖契ﾀｲﾑｽより転載)発行
8-9月 伝道視察および奉仕のため、教団代表として
長谷川義信師渡台
10月 聖契神学校別館献堂
10月 鶴見教会献堂
12月 寒川牧師館献堂
12月 小田原教会閉鎖
1972年 3月 ECCA内国伝道部長ﾎﾟｰﾙ・ｱﾝﾀﾞｰｿﾝ師来日
5月 湘南台教会献堂
1973年 4月 ﾉｰｽﾊﾟｰｸ神学校教授ｸﾞﾚﾝ・ｱﾝﾀﾞｰｿﾝ師来日(特別講義)
4月 国府津教会、教団離脱
9月 青年ｷﾘｽﾄ者霊交会に教団代表として長谷川義信、
松本芳三両師訪韓
1974年 6月 第一回日本伝道会議(京都)に教団代表として
高橋正行、日吉俊泰、梅田與四男三師を派遣
1975年 2月 堀川 勇師(元教団代表役員・聖契神学校学監)召天
2月 ECCAよりの援助金打ち切り
6月 ECCA創立90周年記念大会に教団代表として
長谷川義信師渡米
6月 元宣教師ｱｰﾈｽﾄ・ｸﾘｽﾃﾝｾﾝ師夫人召天
6-10月 集中方式伝道(ﾀﾞｲﾅﾐｯｸ・ｸﾙｾｰﾄﾞ)実施
(協力・日本ｷﾘｽﾄ宣教会主講師:松見恒男師)
1976年 5月 小田原ｸﾘｽﾁｬﾝ・ｾﾝﾀｰ開所
(英会話教室・ｷﾘｽﾄ教図書販売)
8月 教団創立25周年記念夏季修養会開催(赤城ｷｬﾝﾌﾟ)
教団創立25周年記念ｱﾙﾊﾞﾑ発行
11月 教団教職研修会(伊豆大島泉の家・ﾎｰﾘﾈｽ教団所有)
講師:ﾗｯｾﾙ・ｻｰﾋﾞﾝ師(ECC世界伝道部長 参加17名)
ECCより創立25周年記念のお祝いの額を受領
9-12月 集中方式伝道実施
1977年 4月 小田原ｸﾘｽﾁｬﾝｾﾝﾀｰ(OCC)教団施設として承認
清瀬教会第三種承認
6月 教会成長ｾﾞﾐﾅｰﾙ 教職9名参加
高崎教会特別支援
中根れん伝道師辞任
9月 湘南台の責任が茅ヶ崎より移行。大山武俊師任命
11月 全ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ世界伝道会議(ﾒｷｼｺ)教職4名参加

1978年 1月 新年修養会、神学校で開催(講師:羽鳥明師)94名参加
2月 ﾍﾞﾃﾙ聖書研究講習会(箱根)教職8名参加
聖約・聖契・同盟福音三団体代表者会議(古知野教会)
3月 聖契神学校創立25周年記念祝賀会(ﾎﾃﾙ ﾆｭｰﾒｸﾞﾛ)
講師:小助川次雄師 60名
4月 創立25周年記念誌「行って実を結ぶために」発行
松田教会第二種
1979年 4月 湘南台教会第三種、鶴見教会第一種へ
上原義次師、教団教職辞任。佐藤直正師酒匂牧師就任
6月 聖約・聖契・同盟福音三団体代表者会議
(倉敷聖約教会)

1981年 9月 聖約・聖契・同盟福音・福音自由四団体協議会発足
宇佐美秀樹教職解任・高ヶ坂伝道所承認取り消し
1982年 1月 ｺﾞｰﾄﾞﾝ・ｼﾞｮﾝｿﾝ宣教師、心筋梗塞で召天 57才
日本自由福音教会連盟発足
4月 ｱｰﾈｽﾄ・ｸﾘｽﾃﾝｾﾝ宣教師夫妻、引退し帰米
第一回ｼﾝｸﾞｽﾋﾟﾚｰｼｮﾝ(神学校 16教会 145名参加)
恒身三重子師、教職辞任
城山教会第三種
1982年10月 湘南台教会新会堂献堂式
1983年 2月 小田原ｸﾘｽﾁｬﾝｾﾝﾀｰ(OCC)献堂式
4月 第二回ｼﾝｸﾞｽﾋﾟﾚｰｼｮﾝ(神学校 16教会 183名参加)
1984年 4月 長岡教会第一種。
10月 江古田ｸﾞﾚｰｽ・ﾁｬｰﾁ開所
1985年 2月 第三回ｼﾝｸﾞｽﾋﾟﾚｰｼｮﾝ(農林年金会館 270名参加)
5月 ﾒﾙﾎﾞﾙﾝ・ﾒｯﾄｶｰﾌ宣教師夫妻、引退し、帰米
6月 ECC設立100年記念祭典訪問団(27名参加)
1986年 4月 渋川教会第一種
ﾙｼﾙ・ｼﾞｮﾝｿﾝ宣教師夫人、引退し、帰米
10月 ECC宣教地視察団来日、各教会を訪問
11月 第四回ｼﾝｸﾞｽﾋﾟﾚｰｼｮﾝ(川崎市中原会館 221名参加)
1987年 1月 清瀬教会閉鎖
4月 日本福音連盟(JEA)加盟申請承認
8月 近藤芳雄師(渋川)心不全で召天
9月 ﾊﾘｰ・ｳｴｽﾄ宣教師夫妻、引退し、帰米
11月 深田寿美子教団事務職員退職
1988年 4月 伊勢崎伝道所開設始
南流山教会教団加入承認
江古田教会第三種
9月 ｱｰﾈｽﾄ・ｸﾘｽﾃﾝｾﾝ引退宣教師、70才で召天
ｵｰﾙ・ｶｳﾞｪﾅﾝﾄの集い(平和学園ﾁｬﾍﾟﾙ)

11月 ECC宣教地視察団来日、各教会を訪問
1989年11月 寒川教会新会堂献堂式
1990年 5月 全体婦人の集い
(聖契神学校 講師:ﾃﾞｨｱﾄﾞﾘｰ・ﾊﾞﾝｸｽ師 80数名参加)
12月 あらき野伝道所開設
1991年 6月 第三回日本伝道会議(那須塩原) 教職10名参加
11月 教団創立40周年記念大会(御殿場東山荘 169名参加)
1992年 3月 茅ヶ崎教会新会堂献堂式
4月 鷺沼教会第二種
初石聖書教会、教団加入
5月 石田和男師、目黒教会を辞任し、津山聖約教会牧師に就任
11月 ECC宣教地視察団来日、各教会を訪問
1993年 4月 さいわい教会(川崎)が第三種教会として教団加入
城山教会第二種、初石・あらき野教会第三種へ
6月 ﾚｵﾅﾙﾄﾞ・ﾋﾟｰﾀｰｿﾝ宣教師夫妻、引退し、帰米
7月 あらき野教会新会堂献堂式
1994年 2月 第一回教会形成ｾﾐﾅｰ(目黒教会 講師:佐藤 彰師)
4月 久喜教会第三種承認
ｻﾝﾄﾞﾗ・ﾃﾝｸﾞｳｵｰﾙ(ｽﾜﾝｿﾝ)元宣教師、ｶﾞﾝで召天
6月 第二回教会形成ｾﾐﾅｰ
9月 ｳｲﾘｱﾑ・ﾘｸﾞﾏｰｸ元宣教師、事故で召天 80才
10月 「祈りのｶﾚﾝﾀﾞｰ」発行
1995年 1月 第三回教会形成ｾﾐﾅｰ(目黒教会 講師:吉持 章師)
阪神大震災で被災した神戸聖約教会への募金運動
2月 第一回日本自由福音教会連盟教職者研修会開催
(浜名湖ﾎﾃﾙ・ｴﾝﾊﾟｲﾔ)
8月 ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ世界婦人大会(ﾄﾗｲｴﾆｱﾙ ｻﾝﾃﾞｲｴｺﾞ 16名参加)
11月 第四回教会形成ｾﾐﾅｰ
(前橋教会 講師:ｳｲﾘｱﾑ・ｳｯﾄﾞ師 16名参加)
1996年 4月 日本自由福音教会連盟「世界宣教局」発足承認
7月 教団ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ開設
10月 新秋津教会新会堂献堂式
1997年 3月 ﾀｲ宣教視察旅行
7月 吉岡伝道所開設
11月 赤城ｷｬﾝﾌﾟ新ﾁｬﾍﾟﾙ献堂式
1998年 5月 ﾘﾛｲ・ﾋﾟｰﾀｰｿﾝ宣教師夫妻、引退し、帰米
8月 ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ世界婦人大会(ﾄﾗｲｴﾆｱﾙ ﾄﾞﾙｰｽ11名参加)
9月 教育委員会・神学校共催の第一回「献身者のための集い」
(講師:榊原康夫師 80名参加)
10月 茅ヶ崎赤羽根ﾁｬﾍﾟﾙ献堂式
11月 中原伝道所開設
1999年 9月 教育委員会・神学校共催の第二回「献身者のための集い」

（講師：内田和彦師 58名参加）
10月 ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ・ｱｼﾞｱ地区宣教会議（ﾀｲ 教職8名参加）
2000年 3月 小暮達也師、赤城ｷｬﾝﾌﾟ専従者となる
4月 前橋教会の土地一部売却および交換
福祉事業「中原ﾎｯﾄｽﾍﾟｰｽ」介護承認、発足
7月 教団設立50周年記念大会・ｱｼﾞｱ・ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ宣教会議日程決定
（2001年11月23日・淀橋教会 20日-22日・ﾎﾃﾙ浦島）
10月 教育委員会・神学校共催の第三回「献身者のための集い」
（講師：中沢啓介師 40名参加）

（後 記）

事実（件）が歴史を作る。しかし、歴史は単なる事実（件）の羅列ではない。当然記録者の解釈がはいるが、それは私見や推測であってはならない。事実（件）を歪曲する可能性と危険性があるからである。従ってつとめて客観的でなければならない。日本聖契ｷﾘｽﾄ教団の歴史は、保存されている公式資料に基づいて記されるべきである。この小論をまとめるにあたり、以下の資料を参照した。（文責：聖契神学校校長　伊藤淑美）

1. 日本聖契ｷﾘｽﾄ教団・責任役員議事録
2. 〃 ・機関紙「聖契ﾀｲﾑｽ」
3. Japan Covenant Church After Forty Years
(unpublished report by Melbourne J. Metcalf)
4. Covenant Missions inJapan
(by William Rigmark Covenant Press)
5. BY ONE SPIRIT
(by Karl A. OLSSON Covenant Press)
6.「日本聖契ｷﾘｽﾄ教団の歩み」(1)-(4)
（伊藤淑美 聖約ﾆｭｰｽ №128-131 82/6-82/9掲載）



お祈りください

- 日付にあわせて
- 各教会の成長のために
- 各施設が主の働きのために
  豊かに用いられるように
- 教団の教職者のために

教会は彼のために、神に熱心に祈り続けていた。
(使徒12:5)

1 長岡聖契キリスト教会

北部教区





牧師
日吉 俊泰

沿 革

1950.12.8 W.ﾘｸﾞﾏｰｸ、M.ﾒﾄｶｰﾌ両宣教師によって宣教が開始される。以来、M.ﾒﾄｶｰﾌ師は1963年まで宣教。H.ｳｴｽﾄﾊﾞｰｸﾞ師、H.ｴﾝｹﾞﾏﾝ師赴任。
1955年石田(旧姓飯田)和子師。1959年塩田達男師赴任。1961年島田早苗師赴任。1964年会堂建築（10月)。1966年角本行巨師赴任。聖契白百合幼児園はじまる。1970年日吉俊泰師赴任、責任役員会の設置。1976年教団創立25周年記念会参加。1977年水曜祈祷会、早天、断食、徹夜祈祷開始。全ｶﾍﾞﾅﾝﾄ伝道会議日吉師出席。1979年新会堂献堂。S.ﾃｨﾝｸﾞｳｫﾙ、A.ｸﾘｽﾃﾝｾﾝ師夫妻を迎えて英会話教室はじまる。以後5年間、途中M.ﾒﾄｶｰﾌ師に交代して続けられる。
1980年宣教30周年記念礼拝・建堂記念誌発行。1983年新潟総動員伝道県大会開催。1987年短期宣教師R.ﾌﾚﾝﾄﾞ夫妻来岡(1年)。1889年新潟総動員伝道 本田弘慈師来岡。1991年教団創立40周年記念大会参加(御殿場)。1993年全日本ﾘﾊﾞｲﾊﾞﾙ甲子園ﾐｯｼｮﾝ参加(11月)。1995「日本海ﾘﾊﾞｲﾊﾞﾙﾐｯｼｮﾝ」（長岡)開催。
1996年「富山ﾘﾊﾞｲﾊﾞﾙﾐｯｼｮﾝ」(新湊)参加。1998年「東京ﾐｯｼｮﾝ」(9月)参加。
2000年「ｽｰﾊﾟｰﾐｯｼｮﾝ」（東京・大阪)参加。
現在、私たちの教会は、聖契教団が誕生した時のﾘﾊﾞｲﾊﾞﾙの精神的土壌を霊的遺産とし、日本のﾘﾊﾞｲﾊﾞﾙを願い、“今日長岡から世界へ”そして“愛する教会・与える教会・仕える教会・伝える教会”をﾋﾞｼﾞｮﾝとして掲げ、教会形成と、教団・教派を超え、国境を超えた、宣教の働きに当たっています。

〒940-0041 新潟県長岡市学校町1-10-31
TEL 0258-32-8346 FAX 0258-39-3898
E-mail makotoh@seagreen.ocn.ne.jp

渋川カベナント教会

2

北部教区



沿革

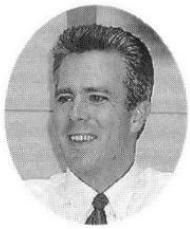
渋川に伝道が開始されたのは1955年である。宣教師館は前年の54年秋に建築に取りかかり、R・ﾊﾞｰﾒ師が着任された。天幕集会、公民館集会を開始し、翌年には定期集会が公民館で持たれるようになり、57年には最初の受洗者が与えられた。師は療養所2ヵ所、児童施設2ヵ所などに伝道する使命を感じられ、熱心に活動された。1964年になって会堂の増築があり、牧師館の寝室と現会堂が加わった。 会堂はこの後1984年近藤牧師の時代に、8坪分さらに広げられ、これに前後して駐車場に別棟の『愛の部屋』が出来、小さい集まりに利用された。現在までに奉仕された教職者は宣教師4名（ﾊﾞﾒｰ、ｸﾘｽﾃﾝｾﾝ、ｴﾝｹﾞﾏﾝ、ｸﾘｽﾀｰｿﾝ）牧師7名（堀田、島田、岩本、高橋、上原、近藤、渡辺）であり、神学生4名（伊藤、大原、山極、川村）も遣わされた。教会は牧師の急逝（1987）と辞任（1999）により二度の無牧を経験している。その間礼拝のご用を勤めて下さった多くの教団の先生方や現在も助けて下さっている方々を感謝を以て心に留めている。

教会は今、新会堂を建てるべく、2001年5月16日に起工式を済ませたところである。10名余りの小人数であるが、これまで積み上げられた奉仕を思い、渋川に置かれた教会の灯を消さないよう、一人でも多くの人々に福音を伝えられるよう努力している。

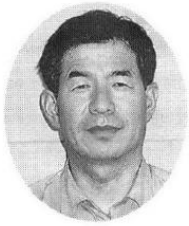
〒377-0027　群馬県渋川市南町2570
TEL/FAX 0279-22-1080

3 吉岡キリスト教会

北部教区



ﾋﾟｰﾀｰｿﾝ宣教師



牧師
渡辺 勇



沿 革

1993年からの北部教区牧師会での開拓伝道についての話し合いに基づき、1994年の4月から群馬県北群馬郡吉岡町で渋川ｶﾍﾞﾅﾝﾄ教会の信徒の家でA.ｼﾞｮﾝｿﾝ師による英会話／聖書研究会が開始された。1995年にﾋﾟｰﾀｰｿﾝ宣教師が伝道委員会より群馬に派遣され、渋川、前橋、高崎と伊勢崎教会と協力しながらその秋から吉岡町での伝道集会が月に一回行われるようになった。

1996年の12月に教会堂となる「久保田ｻｯｼ工場」を借りることが可能となり、ﾋﾟｰﾀｰｿﾝ家のほか4名の信徒が渋川ｶﾍﾞﾅﾝﾄ教会から吉岡へ派遣され、1997年4月から日曜礼拝が始まった。6月から一時帰国のために10ヶ月不在となるﾋﾟｰﾀｰｿﾝ家の代わりにﾃｨﾑ&ｱﾝﾄﾞﾘｱ・ｼﾞｮﾝｿﾝ家が吉岡町に移住し、当時主任牧師の渡辺勇師と共に奉仕をした。
その間、会堂のﾘﾌｫｰﾑがﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの奉仕者によって進んだ。
1998年4月の教団年次総会で第三種教会として認められて、5月にﾋﾟｰﾀｰｿﾝ師が牧師として就任された。

〒370-3601 群馬県北群馬郡吉岡町1489-30
TEL/FAX 0279-54-0701
E-mail peterson@mail.wind.ne.jp

前橋聖契キリスト教会

4

北部教区





牧師
松本 芳三

沿 革

わたしたちの教会は1963年にｱﾒﾘｶ・ｶﾍﾞﾅﾝﾄ教会の宣教師の開拓伝道によって始まりました。そして今日まで38年が過ぎました。この間に3人の宣教師、すなわちｳｪｽﾄﾊﾞｰｸﾞ先生とその家族、ｸﾘｽﾀｰｿﾝ女性宣教師、ｸﾘｽﾃﾝｾﾝ先生とその家族、そして日本人牧師に引き継がれて現在に至っています。

開拓当初は前橋ｸﾘｽﾁｬﾝｾﾝﾀｰと呼称して、宣教師たちは幅広い宣教活動をしていました。本来の活動のほかに、ｷﾘｽﾄ教書籍の販売をはじめ障害者施設への訪問、公立・私立高等学校へ出向いて英語会話とﾊﾞｲﾌﾞﾙｸﾗｽ、またｷｬﾝﾌﾟ伝道を企画するなどを行っていました。

現在　教会は現住陪餐会員19名、礼拝出席者20名、年間予算は400万円です。今、教会は神様の不思議な導きで新しい会堂を建築中です。今年2001年のｸﾘｽﾏｽに完成予定で、教会員は一致して神のみ栄えのために励んでいます。

〒371-0846　群馬県前橋市元総社町152-184
TEL/FAX 027-251-5249

5 高崎カベナント教会

北部教区



牧師
高橋 正行



沿革

高崎教会の歴史は，1956年10月 G・ジョンソン師夫妻（伊勢崎教会牧師のジョンソン師の両親）が、市内貝沢町の宣教師館での集会から始まった。玉村師及び松下神学生の協力と奉仕もあり1957年夏には市の中央においても集会を開いた。58年1月には3名の姉妹が最初の受洗者として与えられ、イースターには貿易会館で特伝を行い、17 名の決心者が起こされた。同8月下旬より9月上旬にかけて聖契神学校伝道チームを浜尻団地に迎え、天幕伝道を開き決心者7名、求道者数名が与えられた。11月には浜松より鈴木武雄師が赴任された。

1959年3月1日、正式に教会の組織化を行ったが、意見の相違からジョンソン師は駅近くの消防署の二階に集会を移し、鈴木師は S 姉宅を集会所として使用することになった。60年10月、牧師の辞任に伴い、11月から聖契神学校の吉田神学生が奉仕のため派遣された。間もなく L・ピーターソン師夫妻（吉岡教会牧師ピーターソン師の両親）が着任され祈りと汗の苦労の中で、62年9月9日、現在の場所に、新会堂が献堂された。

1964年上原義次師が赴任し、4年間の奉仕がなされた。68年高橋師が渋川より着任し現在に至っている。約34年の間、短期間であたが L・ピーターソン師夫妻、バーメ師夫妻、数年前にはティム・ジョンソン師夫妻が協力牧師として奉仕をしてくださった。高崎カベナント教会は生ける主の見守りと導きの中で多くの兄弟姉妹の祈りに支えられている事を実感している。

〒370-0063　群馬県高崎市飯玉町91
TEL/FAX 027-361-3531
E-mail covenant@vega.ocn.ne.jp

伊勢崎聖契キリスト教会

6

北部教区





ｼﾞｮﾝｿﾝ宣教師

沿 革

伊勢崎教会は宣教師委員会および教団の祈りと支援によって1988年4月3日に正式にｽﾀｰﾄしました。
その時から現在まで同じｱﾊﾟｰﾄの場所を借りて礼拝や各集会、英会話ｸﾗｽを行っています。これまでｷﾞｬﾘｰ&ﾎﾟﾘｰﾝ・ｶｰﾙｿﾝ師夫妻、石塚孝、まどか師夫妻、ﾃｨﾑ&ｱﾝﾄﾞﾚｱ・ｼﾞｮﾝｿﾝ師夫妻、松本芳三師が牧師として奉仕されました。
群馬地区の各先生方の協力も大きな助けでした。
英会話ｸﾗｽを通して地域に多くの人とのつながりが生まれ、毎月のﾗｲﾌﾄｰｸ（女性の集い）も祝福されています。これまで何回も牧師の交代があったにもかかわらず神さまは少しずつ教会にﾒﾝﾊﾞｰを加えて下さり多くの恵みを与えて下さっています。現在はｼﾞｮﾝｿﾝ師夫妻が牧会されています。最近、親子ｸﾗﾌﾞも始まり、小さな子供を持つお母さんたちとのつながりも生まれています。中高生会を通して若い魂に対する重荷も与えられています。これからの私たちの働きのためにお祈り下さい。

〒372-0831　群馬県伊勢崎市山王1142-8
TEL 0270-21-0417　　FAX 0270-21-4482
E-mail　tjohnson@bay.wind.ne.jp

7 あらき野キリスト教会

東京教区





牧師
鳥居 光芳

沿 革

あらき野ｷﾘｽﾄ教会は、開拓伝道の召しを受けた梅谷牧師によって,1990年に千葉県我孫子市新木野の地に開かれました。師はその時68歳で、新たに教会を開拓するには決して若くはありませんでしたが、それまで奉仕されていた酒匂教会を辞して、召しに従われました。

「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。」という主の言葉を聞いて直ちに従ったのはｱﾌﾞﾗﾊﾑですが、そのとき75歳であったと聖書にあります。

このあらき野ｷﾘｽﾄ教会は、主がｱﾌﾞﾗﾊﾑに約束されたと同じ約束を与えられている教会であると信じています。主はｱﾌﾞﾗﾊﾑに対して、「地上の全ての民族は、あなたによって祝福される。」と約束されました。あらき野ｷﾘｽﾄ教会は、まだ小さくはありますが、必ずやこの教会を通して多くの**魂が救われ**ていくことでしょう。

新世紀に入った今年、志は新牧師に引き継がれています。



前牧師
梅谷 養二

〒270-1114 千葉県我孫子市新木野2-12-1
TEL/FAX 0471-88-4885

南流山ﾊﾞｲﾌﾞﾙﾌｪﾛｰｼｯﾌﾟ

8

東京教区





牧師
伊野 彰一

沿 革

南流山ﾊﾞｲﾌﾞﾙﾌｪﾛｰｼｯﾌﾟは、1985年に牧師家族が南流山でｽﾀｰﾄした家庭集会に端を発している。1988年4月に教団に加入。そしてﾍｲﾜｰｽ師との協力関係をｽﾀｰﾄした。1993年にﾐﾆﾁｬｰﾁと金・土・日の礼拝を開始し、1995年に会堂をﾏﾝｼｮﾝの一室に移した。

1997年9月に元ﾁｰﾑの宣教師ﾚｲｸ師との協力を開始、また翌年ｱｲﾀﾞﾎ州ﾙｲｽﾄﾝ市からｼｬﾌﾚｰ師とﾌﾞﾗｲﾄﾊｯﾌﾟ師を迎え、ﾘﾊﾞｰｼﾃｨｰ・ｸﾘｽﾁｬﾝ・ﾐｯｼｮﾝの設立に協力。留学生に対するﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟや小学校や教会での英会話を通して地域との交流が深まっている。

教会は、ﾐﾆﾁｬｰﾁの働きを通して祝福されている。婦人のﾐﾆﾁｬｰﾁ、茨城やﾚｲｸ師宅、上田姉宅でのﾊﾞｲﾌﾞﾙｽﾀﾃﾞｨｰ等、信徒が自立した自発的な働きが増えている。教会が成長して新たな場所が与えられるように祈っている。

〒271-0163　千葉県流山市南流山1-3-7　ｶﾝﾌｫｰﾄ流山310
TEL 0471-59-3458　　FAX 0299-58-3852

9 久喜めぐみキリスト教会

東京教区



ﾍｲﾜｰｽ宣教師



牧師
小山田 格



沿 革

久喜めぐみ教会は、1989年の半ばに、埼玉県の久喜市にある高木病院における少数の者による聖書研究会から始まった。当時、ｼﾞｪｲ・ﾍｲﾜｰｽ師夫妻は、流山ﾊﾞｲﾌﾞﾙﾌｪﾛｰｼｯﾌﾟの伊野彰一師夫妻と協力していたが、流山教会に参加していた一家族が久喜市に引っ越したときに、ﾍｲﾜｰｽ師は聖書研究をすることを提案したのである。まず、5人による聖書研究会が始まり、また病院の看護婦たちのための英語のｸﾗｽも始まった。数ヶ月間の聖書研究の後に,1992年の6月14日より、久喜にある関根歯科医院の3階を借りて、礼拝が始まるようになった。聖書研究会から礼拝へと移行したのである。宣教師の、他教会との協力が継続できるように、夕拝としてｽﾀｰﾄした。1994年の4月29日に、第3種教会として、日本聖契ｷﾘｽﾄ教団に受け入れられた。当時の会員は4人であったが、1999-2000年の間に3人の者が初めて受洗し、教会員に加えられた。

今は、宣教師夫妻と共に聖書同盟総主事の小山田格師が協力牧師として働いている。

世界宣教に重荷を持つ地域教会として成長できるように、祈っていただきたい。

〒346-0003 埼玉県久喜市中央3-9-44（関根病院）
TEL 090-2318-3069(ﾍｲﾜｰｽ)
E-mail ihaworth@gol.com(ﾍｲﾜｰｽ) t-oyama@246.ne.jp(小山田)

初石聖書教会

10

東京教区





牧師
勝本 正實

沿 革

初石聖書教会の開拓伝道開始は、1990年5月のことです。
流山市美田の住宅兼集会所の形で始まりました。ﾄﾗｸﾄ配布を中心に、反応のあった方を 訪問して教会に誘うことで人が導かれました。91年7月に、教会墓地としてﾗｻﾞﾛ霊園の一区画を契約し、92年4月に聖契教団に加入させていただきました。
95年4月から集会所を江汎ﾎｰﾙに移すと共に、将来の会堂のために積み立てを始めました。そして2000年9月に、江帆ﾎｰﾙの隣接地の元ｽｰﾊﾟｰを教会堂として購入し、流山市西初石で新たな気持をもって宣教を続けています。
初石教会は、「ｹｱｰのできる教会形成」を目指しており、まず高齢者や障害者の方のための働きを、地域の方と協力しながら進めています。今後、教会としてなすべきことを広げていきたいと願っています。

また初石教会は地域性もあって、他教会からの転入者の方が多い教会です。いろんな背景を持った方たちが、主に在って、初石教会を自分たちのつらなる教会として、ｷﾘｽﾄの体なる共同体を形成し、信仰の歩みを重ねていただきたいと願っています。

〒270-0121 千葉県流山市西初石4-112-2
TEL/FAX 0471-55-4950 E-mail ha55@mtc.biglobe.ne.jp
HP http://www2s.biglobe.ne.jp/~katsumot/index.htm

11 新秋津キリスト教会

東京教区



牧師
梅田　與四男



沿革

1. その歴史

1971年10月31日(日)「宗教改革記念日」に12名の会員によって、私たちの教会は設立されました。その5年前から、当時の宣教師館で「日曜学校」が開かれ、そして1967年から「主日礼拝」が守られるようになりました。ところがその2年後、顕在のJR武蔵野線敷設と新秋津駅工事のため、宣教師館が壊されることになったのです。しかし、始められたことを中断せず、その跡地にﾌﾟﾚﾊﾌﾞの会堂を建てて礼拝を守り、伝道を続けたのでした。そのようにして、先の教会設立の喜びの日を迎えたのです。

牧師は、設立以来、はじめｳｪｽﾄﾊﾞｰｸﾞ宣教師、続いてﾒｯﾄｶｰﾌ宣教師が奉仕されて5年が経過し、1976年から現在の梅田牧師に引き継がれています。1996年の設立25周年記念主日には、現在の新会堂の献堂式を執り行い、今日にいたっております。

2. その目標

私たちの教会は、「宗教改革記念日」に設立された教会にふさわしく、宗教改革的ﾓｯﾄｰを明確に掲げ、ﾌﾟﾛﾃｽﾀﾝﾄ信仰を継承してまいります。また、その後の「敬虔主義」の流れにも沿って、生き生きとした信仰、敬虔な生活、伝道に対して深い関心を持ち続けたいと思います。また、1988年から掲げました教会形成の標語、《うるわしい共同体創り》を目指しています。近年はその具体化として、ﾐﾆｽﾄﾘｰを中心にした教会形成を目指し、礼拝、交わり、教育、伝道、奉仕の各担当者が、働きを担うおうとしています。

〒189-0001 東京都東村山市秋津町5-25-1,2　教会：TEL/FAX　042-394-5076
教会 E-mail　akitsukk@ml3.alpha-net.ne.jp
教会 HP http:www.alpha-net.ne.jp/users2/akitsukk
牧師館：TEL/FAX 042-398-0809　牧師 E-mail ez2y-und@asahi-net.or.jp

ｸﾞﾚｰｽﾐｯｼｮﾝﾁｬｰﾁ

12

東京教区





牧師
宮本 俊一

沿 革

現教会の前身である江古田ｸﾞﾚｰｽﾁｬｰﾁは1984年、ﾍｲﾜｰｽ宣教師夫妻を迎えて、東京都練馬区江古田駅近くの古い貸店舗を改装してｽﾀｰﾄ。 開拓初期は子供伝道に力を入れ、近隣の子供達が毎週大勢集まり、牧会の基礎となる数年間でした。やがて牧師夫妻の家族が次々に救われ受洗し、家族の励ましやｼﾞｮﾝｿﾝ、ﾋｭｰｽﾞﾋﾞｰ師などの協力を得ながら歩むことが出来ました。

教会としての大きな転機が起こったのは1991年でした。ﾌｨﾘﾋﾟﾝ、ﾙｿﾝ島ﾋﾟﾅﾂﾎﾞ火山で20世紀最大規模の噴火があり、その救援のために牧師夫妻が1ヶ月ﾌｨﾘﾋﾟﾝへ遣わされました。それ以来、教会として海外宣教の働きが始まり、20回の宣教ﾂｱｰを実践し、ﾋﾟﾅﾂﾎﾞ、ﾈｸﾞﾛｽ島の2箇所に教会を建て、延べ150名以上の宣教参加者をﾌｨﾘﾋﾟﾝへ送り出しました 。

1996年、教会は現在の東京都北区にある牧師自宅に移転し、教会名もｸﾞﾚｰｽﾐｯｼｮﾝﾁｬｰﾁと改名しました。、宮本牧師は巡回伝道者として国内外宣教が主な働きとなりました。ﾊﾟｳﾛの時代のｱﾝﾃｵｹ教会のような宣教する教会を目指しています。

〒114-0034　東京都北区上十条1-4-14
TEL 03-3908-0888　FAX 03-3908-9901
E-mail　Miyamoto7@aol.com

13 目黒カベナント教会

東京教区





牧師
坂本 公明

沿 革

1954年 3月28日 聖契神学校において、目黒教会発足。
初代牧師ｳｨﾘｱﾑ･ﾘｸﾞﾏｰｸ牧師。教会学校開校。
1956年 1月 ﾘｸﾞﾏｰｸ牧師辞任、堀川勇牧師就任。
1958年 現住所に土地建物を購入。礼拝始まる。同年10月 堀川勇牧師辞任、石田和男師就任。1959年 ｷﾘｽﾄ教宣教100年記念特別集会を毎月開催した。講師は宣教師10名、日本人講師2名。
1960年 聖契神学校伝道ﾁｰﾑの伝道会を開始。
1961年 5月 東京ｸﾘｽﾁｬﾝ・ｸﾙｾｰﾄﾞに参加。
1963年 5月 創立10周年特別集会、講師は堀川勇師第一回東京ｲｰｽﾀｰの集い
1966年9月4日 新会堂献堂式。
1968年 教会墓地として、富士霊園を購入。
1971年 石田和男牧師、日本聖契ｷﾘｽﾄ教団代表選出。
1972年 目黒ｶﾍﾞﾅﾝﾄ教会、宗教法人認可。
1975年 会堂増改築完了。
1984年 目黒ｶﾍﾞﾅﾝﾄ教会、創立30周年記念感謝礼拝。
1992年 石田和男牧師辞任、名誉牧師になる。同年、小山田格牧師が就任。
1998年 小山田格牧師辞任。2年間無牧となる。
2000年 4月1日より坂本公明牧師を迎える。
2000年 9月 創立46周年記念感謝礼拝

〒153-0065 東京都目黒区中町1-34-11
TEL/FAX 03-3908-0888
E-mail mecc@po.jah.or.jp

鷺沼キリスト教会

14

神奈川教区





牧師
渡辺 啓二

沿 革

1980年5月に、本教会の歩みが始まり、本年で満21年を迎えました。ｱﾊﾟｰﾄの一室で始まり、正にｾﾞﾛからの出発でしたが、年々兄姉が加えられ、ｷﾘｽﾄのからだなる教会が形成されてきたことを心から感謝します。

本教会は当初から、ｺﾐｭﾆﾃｨｰ・ﾁｬｰﾁとして地域の必要に応え、地域に広く開かれた教会形成を目指してきました。その視点から学童保育や相談室の働きに取り組んできました。本年度からは「子育て支援」のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを新たにｽﾀｰﾄしました。また、この間、本教会の伝道所として始まったさいわい教会、中原教会が、それぞれ独立した教会として歩みを重ねているのは大きな喜びです。川崎地区の3教会が協力して宣教の前進が図られるようにと願っています。

〒216-0035　神奈川県川崎市宮前区馬絹1455-9
TEL 044-855-3261　　TEL/FAX 044-852-1776(牧師宅)

15 さいわいキリスト教会

神奈川教区



牧師
永関正夫



沿 革

わたしたちのさいわいｷﾘｽﾄ教会は、1992年のｲｰｽﾀｰ4月14日より神奈川県の川崎幸区において礼拝を始めました。準備期間として前年度は聖書を読む会をしてきました。ﾚｵﾅﾙﾄﾞ・ﾋﾟｰﾀｰｿﾝ夫妻が初年度は開拓伝道に協力してくださいました。そして永関正夫牧師を中心として少しづつ兄弟姉妹が集められてきました。木曜日にも、ｶｰﾙｿﾝ宣教師夫妻等の協力でｵﾘｰﾌﾞの礼拝が婦人たちを中心に行われています。とても家族的な教会です。地域に根ざした教会をめざしています。まだ小さな群れですが、一人一人をかけがえのない一人として、神の家族としての交わりを深めています。どうぞ私たちのさいわいｷﾘｽﾄ教会のためにお祈りください。

〒211-0955　神奈川県川崎市幸区南加瀬4-21-32
TEL 044-588-5840　　TEL/FAX 045-583-6250(牧師宅)

中原キリスト教会

16

神奈川教区





カールソン宣教師



牧師
佐々木 炎

沿 革

中原ｷﾘｽﾄ教会は鷺沼教会・さいわい教会の川崎地区教会と協力して新しい伝道の場を川崎の地に求め、1998年10月に開所しました。同時にこの場所で『ﾎｯとｽﾍﾟｰｽ中原』という高齢者のﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ（通所介護）を週3回（現在4回）開始し、2000年度から神奈川県知事指定介護保険事業者として、訪問介護、通所介護、居宅介護支援の介護保険三事業を教団の施設としておこなっています。また英会話教室を毎週火曜日4ｸﾗｽ、小さな子どもを抱える母親を支える『親子ふれあい広場』『ｺﾞｽﾍﾟﾙの集い』を行っています。直接福音を言葉で語る伝道方法だけでなく、地域の人たちが気軽に立ち寄り、集える場を提供することで『教会が地域の資源』としてｷﾘｽﾄの命（生きる力・生きる喜び・共に生きる仲間）を与えられる場所になれるように願っています。
また開所以来、礼拝は家族礼拝として、途中に子どものための賛美とﾒｯｾｰｼﾞの時間を設けています。今後も教会に集う一人一人と聖霊なる神様に支えられながらｷﾘｽﾄの教会を建てていければと願っています

〒211-0053　神奈川県川崎市中原区上小田中5-4-2
TEL 044-777-7599　TEL/FAX 044-855-4247(牧師宅)
E-mail gpcarl@tkb.att.ne.jp（ｶｰﾙｿﾝ） honoo-s@rb3so-net.ne.jp（佐々木）

17 鶴見聖契キリスト教会

神奈川教区



主任牧師
関野 祐二



協力牧師
伊藤 淑美



沿 革

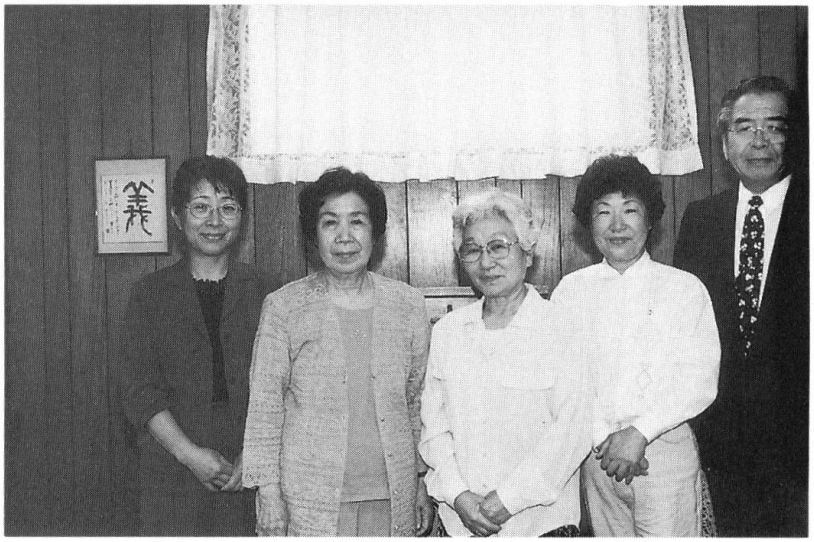
1964年に平塚教会の大学生であった臼井勲（理髪業）・弘（現改革派青葉台教会牧師）による親族伝道の結果、家庭集会からｽﾀｰﾄし、現在地に当時の宣教会により土地（43坪）が購入され、二年後に米国留学から帰国した伊藤淑美師を牧師に迎えて正式に組織された。1971年ﾊﾟｻﾃﾞｨﾅ・ｶｳﾞｪﾅﾝﾄ教会からの特別献金と借入金で二階建ての会堂と牧師館を献堂。近隣へのﾄﾗｸﾄ伝道や短期宣教師の奉仕による英会話教室がなされ、教会学校も100名を越える盛況となり、青年会員同志による結婚式ﾗｯｼｭが続いた時もあった。35年の歴史のなかで約60名が受洗したが、結婚・転居などで転会者も出た関係で教勢の飛躍的な増加はなかったが、現会員の大半が地域に住んで堅実な信仰生活を続けている。1994年に会堂内外の全面改装工事を行った。2001年3月末をもって伊藤牧師夫妻は35年にわたる奉仕を終え、関野祐二師に責任を譲った。

〒230-0074　神奈川県横浜市鶴見区北寺尾1-16-7
教会℡ 045-572-0857　　関野℡/FAX 03-3713-9106
E-mail KGH01166@nifty.ne.jp(関野)　BXU00306@nifty.ne.jp(伊藤)

湘南台キリスト教会

18

神奈川教区





牧師
長谷川 義信

沿革

1960年後半、既存の街に後から宣教を開始するのでなく、街が作られる前から街作りとともに「教会形成」をとの願いで土地探しが始まった。その候補地として、当時藤沢市が進めていた大がかりな西部開発事業で見いだされた。しかし、この案は、諸般の事情で中止となり、数年後小田急線沿線を中心に調査し、湘南台駅周辺がその候補に挙がり、1972年5月に待望の湘南台の土地をECCからの献金600万円で取得出来た。水田を埋め立て見渡す限りの畑地となっている土地に「日本聖契ｷﾘｽﾄ教団湘南台教会建設予定地」との立て看板を立てた感動は今も忘れることが出来ない。そして将来高層建築も可能のようにと基礎工事を施し、平屋の会堂兼牧師館が献堂された。

その春、小宮淳師が初代牧師として就任し、開拓伝道が始められた。小田原から藤沢市に転居された酒匂ｷﾘｽﾄ教会会員の日吉邦雄兄が転入会され、1972年11月5日、求道中の夫人弘子姉が相模川で長谷川師よりﾊﾞﾌﾟﾃｽﾏを受けたのが受洗者第一号であった。ご夫妻は、日曜学校・諸集会に忠実に出席され、熱心に奉仕された。

小宮師が一年余で辞任して以後、H・ｳｪｽﾄﾊﾞｰｸﾞ師、守本愛子師、大山武俊師、塚越聡師、斉藤繁美師(2001年3月辞任)の諸先生方がご奉仕くださった。また、同じ境内地に新会堂(1階駐車場、2F礼拝堂)が建立されたのは、1982年6月である。2001年4月からは長谷川師が兼牧となり教区の牧師会の支援を得ながら牧会伝道が進んでいる。

〒252-2804 神奈川県藤沢市湘南台4-1-5
TEL/FAX 0466-43-0412

19 茅ヶ崎聖契キリスト教会

神奈川教区



牧師
守本　愛子



牧師
丸山　光



沿革

1957年6月、ひばり幼稚園をお借りし、ｸﾘｽﾀｰｾﾝ、ﾘﾝｽﾄﾛｰﾑ両婦人宣教師により伝道開始。

1974年4月、安達忠師着任、76年4月、守本愛子師着任、93年4月丸山光師着任。1992年3月、現会堂献堂。97年7月、開拓40周年を記念し、茅ヶ崎北部赤羽根にﾁｬﾍﾟﾙ完成し、一教会二会堂制として現在に至る。

＜ﾋﾞｼﾞｮﾝ＞
「荒野が果樹園に、
果樹園が森になる」
ｲｻﾞﾔ32章15節
「どの町にもｶﾍﾞﾅﾝﾀｰを」
「聖書のみことばに立ち、
一人一人の賜物が生かされ、
組み合わされて、主の使命を
果たす教会」



赤羽根チャペル

ひばりヶ丘：〒253-0027 神奈川県茅ヶ崎市ひばりヶ丘7-23
TEL 0467-86-1166　　FAX 0467-87-8144
赤羽根　　：〒253-0001 神奈川県茅ヶ崎市赤羽根3148
TEL 0467-50-1425　　FAX 0467-50-1426

寒川キリスト教会

20

神奈川教区





牧師
長谷川　義信

沿革

1959年寒川の地での伝道が開始される。女性宣教師R・ｸﾘｽﾀｰｿﾝ師が、寒川駅前の公民館を借りて集会を始めたのが草分けとなった。翌年、K・ﾗﾝﾃﾞﾙ師が引き継ぎ、神学生だった長谷川師が協力者に加わる。62年来日した後任のG・ｼﾞｮﾝｿﾝ師と長谷川師が会堂の必要を覚え、丘の上の最良の地に会堂（旧）を1964年に献堂、長谷川師が牧師として招聘された。以来、「神第一主義」をﾓｯﾄｰに、相模一宮寒川神社の睥睨する土地柄の中で、37年間、福音の灯台としての役割を担ってきた。

70年一種教会となり自立。71年牧師館献堂。82年第二会堂（教育館）献堂。89年新会堂献堂。創立時7人の会員が、この時41人となる。創立以来の受洗者は93人に上り、礼拝は、当初から主日に2回持たれていたが、現在は第一のあとに続いて各種の祈祷会や讃美礼拝、ﾃｷｽﾄによる訓練会を各週ごとに行っている。定例の祈祷会のほかに、家庭集会や英語教室がもたれており、そこからも求道者が与えられている。

92年、韓国の漢嘉欖（ﾊﾝｶﾞﾗﾝ）教会と姉妹教会になり、世界宣教に共働している。牧師も日韓親善宣教協力会の謝罪と和解の働きに理事として尽力されている。98年日本国際飢餓対策機構の働きを教会が推進母体となり活動を開始。教会外の実行委員とも協働し、町長と行政の理解と協力を得ながら年1回、大会を開いている。今後のﾋﾞｼﾞｮﾝとしては、教勢の回復と伸長、子弟の信仰継承とｸﾘｽﾁｬﾝ二世の復帰、献身者が起こされること、高齢化社会への対応、等が実現できるように願っている。

〒253-0105　神奈川県高座郡寒川町岡田3-23-41
TEL 0467-75-0542　FAX 0467-74-0345
E-mail　nonu@t-samukawa.or.jp

21 平塚聖契キリスト教会

神奈川教区





牧師
内田 昭

沿 革

＜草創期＞
堀川勇師（国府津教会）の指導により1948年に家庭集会が始められる。三上家、臼井家、杉岡家が集会のために用いられた。やがて、家庭集会から教会形成に至り、1951年の日本ｶﾍﾞﾅﾝﾄ教団設立時に、その加盟教会として出発する。初期には、定住牧師がおらず、牧会伝道のために多くの神学生の協力を得た。

＜発展期＞
1956年、従軍牧師として日本におられたﾗｲﾄ師を通じて米国からの献金をいただき、現在の教会土地を購入、1963年に会堂建築をする。定住牧師も与えられ、活発な伝道が展開された。歴代の主任牧師は、堀川師、牧瀬師、ﾒｯﾄｶｰﾌ師、島田師、角本師、夏村師、土屋師、そして現在の内田師へと引き継がれてきた。

＜拡充期＞
1974年には宗教法人として認証され、教団一種教会となる。牧師館の建築、教会堂の増築なども相次いで行われ、様々な地域活動も行われるようになり、教会は成長を続けてきた。

〒254-0812　神奈川県平塚市松風町7-9
TEL 0463-21-4201　FAX 0463-21-4203
E-mail hiratuka-covenant@nifty.com

松田聖契キリスト教会

22

神奈川教区





牧師
清水 康

沿 革

松田聖契ｷﾘｽﾄ教会は1949年頃、当時、国府津教会の副牧師であった松元茂師が杉本春吉兄弟を伴い、開拓伝道をされた結果、50年に会員5名を以て組織された。翌年には小さな牧師館が建てられ、更に1952年、幾多の困難を克服し、小さいとはいえ、魅力的な教会が献堂された。その頃の新聞には「足柄上郡初のｷﾘｽﾄ教会が建った」と報道された。それに伴い、宗教法人の認可申請を行い、1955年2月宗教法人松田聖契ｷﾘｽﾄ教会が発足し、
57年には会員は51名と増加した。その後、63年4月、松元茂師が宣教師として台湾に行かれ、その後、佐藤勇師、角本行巨師、島田早苗師、高橋美重子師、恒見和久師と牧師が変わり、1987年2月に現在の清水康師が赴任、現在に至っている。

〒258-0003 神奈川県足柄上郡松田惣領2060-8
TEL/FAX 0465-82-5858
E-mail shimizu@tecnet.or.jp
HP http://www.tecnet.or.jp/~shimizu/index.htm

23 酒匂キリスト教会

神奈川教区





牧師
勝俣 慶信

沿革

酒匂は1949年より神奈川における宣教師活動の中心地となり、E.ネルソン師、H.エンゲマン師、G.ジョンソン師、M.メトカーフ師、R.クリスターソン師、H.ウェストバーグ師が奉仕にあたった。続くE.クリステンセン師在任中の1964年9月27日、国府津教会から独立した礼拝を開始し、酒匂キリスト教会が設立された。再度メトカーフ師が着任し、翌年岸義紘師が招聘され、1968年6月2日献堂式が行われた。岸師の留学後、再度ジョンソン師が奉仕、日本人牧師への移行に際し多くの試練を受けながら、佐藤直正師、北澤正明師、梅谷養二師、関野祐二師が歴任、2000年4月より勝俣慶信師が奉仕している。この間、10名を超える献身者を教団内外に送り出した。酒匂とその近郊は大型店舗が次々と出店している人口急増地区であり、文書伝道と子育て支援の働きを軸とする、地域と結びついた伝道活動、および、みことばを学び、適用することに力を入れた教会形成が続けられている。

〒256-0816 神奈川県小田原市酒匂3-13-8
TEL 0465-47-3282　FAX 0465-47-5689
E-mail RXK11353@nifty.ne.jp

城山キリスト教会

24

神奈川教区





牧師
関根 弘興

沿 革

1980年10月小田原ｸﾘｽﾁｬﾝｾﾝﾀｰ内で、日曜日の夜「小田原ﾊﾞｲﾌﾞﾙﾌｪﾛｰｼｯﾌﾟ」という名称で始められた。翌年、日曜の朝の礼拝が開始される。しかし、1982年1月、開拓伝道を進めていたG･ｼﾞｮｿﾝ宣教師が召天し、同年4月、関根弘興師が派遣され開拓伝道を引き継ぐことにり、城山ｷﾘｽﾄ教会として正式にｽﾀｰﾄすることになった。開拓当初は、国内開拓伝道会(超教派の開拓伝道支援団体)から経済的な支援を受け活動がなされた。開拓当初から小田原ｸﾘｽﾁｬﾝｾﾝﾀｰの部屋を使用させていただきながら、伝道が進められ、現在に至っている。

1999年から真鶴で始められたｼﾙﾊﾞｰｺｰﾗｽ(高齢者を対象にした楽しいｺｰﾗｽの集い)によって、2001年2月に真鶴ﾁｬﾍﾟﾙがｽﾀｰﾄ。真鶴地区の伝道の道が開かれ、大きな喜びとなっている。

また、牧師は、PBAの放送伝道の働きに加わり、ﾃﾚﾋﾞ番組「ﾗｲﾌﾗｲﾝ」の司会及び、「世の光」のﾗｼﾞｵﾒｯｾｰｼﾞを担当している。

〒250-0045　神奈川県小田原市城山1-6-18
TEL/FAX 0465-34-5595
E-mail church@sky.zero.ad.jp　　HP http://sky.zero.ad.jp/church/

25

教団施設

聖契神学校





校長
伊藤 淑美

沿 革

本校は1952年10月、日本ｶﾍﾞﾅﾝﾄ宣教会によって創立・開校し、翌年東京都認可の各種学校となった。当初は聖書科のみであったが、5年後に神学科が設けられた。1967年4月以降は宗教法人・日本聖契ｷﾘｽﾄ教団立となった。1973年4月より拡大神学教育制度を導入した結果、昼夜間の基礎科と専門科に変更され、今日にいたっている。本校の使命は福音的な働き人を送り出すことにあり、このために健全な神学と豊かな経験を持った福音派の教授陣による充実した授業が行われている。創設以来、約450名の卒業生が牧師・信徒奉仕者などの立場で、国内外で福音宣教のわざに従事している。2002年10月には創立50周年を迎える。

〒153-0061 東京都目黒区中目黒5-17-8
TEL 03-3712-8746　　FAX 03-3712-8804
E-mail seikei@kikimimi.ne.jp

赤城バイブルキャンプ場

26

教団施設





ﾏﾈｰｼﾞｬｰ
木暮 達也

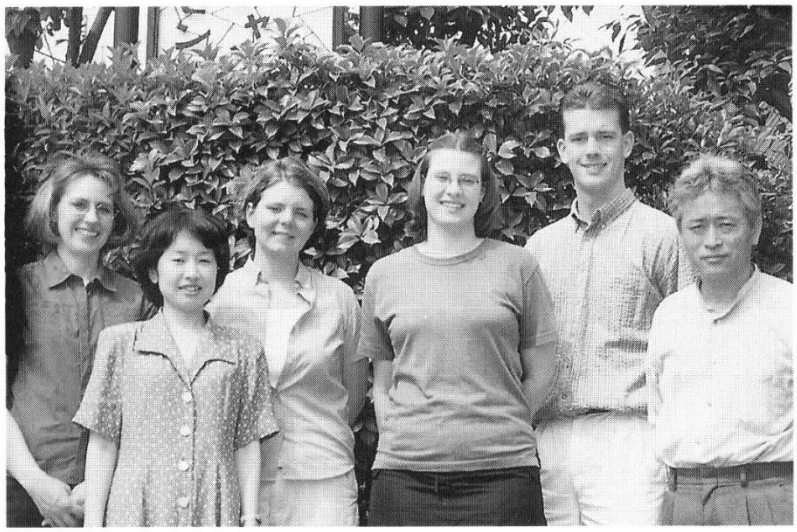
沿 革

1961年頃、自分たちのｷｬﾝﾌﾟ場をとの願いにより、1963年赤城山ﾀﾞﾝ･ﾛｯｼﾞを購入し、「赤城聖契ｸﾘｽﾁｬﾝ荘」としてｷｬﾝﾌﾟ伝道が開始された。創設以来、ﾊﾘｰｴﾝｹﾞﾏﾝ師がｷｬﾝﾌﾟ伝道のために尽力された。1964年上原義次師が協力者として関わり、様々なｷｬﾝﾌﾟが開催されるようになり、教団外からの利用も増加していった。1978年以降、実質的運営責任が宣教師側から日本人側に移されるにあたり、松本芳三師がﾏﾈｰｼﾞｬｰに就任し、牧会のかたわら、17年余の奉仕をされた。常駐者の不在、建物の老朽化などの事情により、施設の存廃を問う議論がなされたが、1995年年次総会にて、施設の存続が決議された。1997年牧師、宣教師、信徒、米国からのﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの懸命な労により、「新しいﾁｬﾍﾟﾙ」が完成し、同年11月24日に「礼拝堂」(120名収容)を献堂することができた。24時間、礼拝に、祈祷に、賛美に利用できるのはｷｬﾝﾌﾟ場にとして大きなﾒﾘｯﾄになっている。さらに、正式名称を「赤城ﾊﾞｲﾌﾞﾙｷｬﾝﾌﾟ」(通称A.B.C)とし、2000年春、長年の祈願であった専従ﾏﾈｰｼﾞｬｰとして木暮達也牧師夫妻が着任し、ｷｬﾝﾌﾟ場独自のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑも2001年から開催されている。理事会では近い将来のﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄとして、ABCの新築構想の実現に向けて真剣に取り組み始めている。

〒371-0101 群馬県勢多郡富士見村赤城山2-30
TEL/FAX 027-287-8640
E-mail QRE14566@nifty.com

27 小田原クリスチャンセンター

教団施設





ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ
清水 康

沿 革

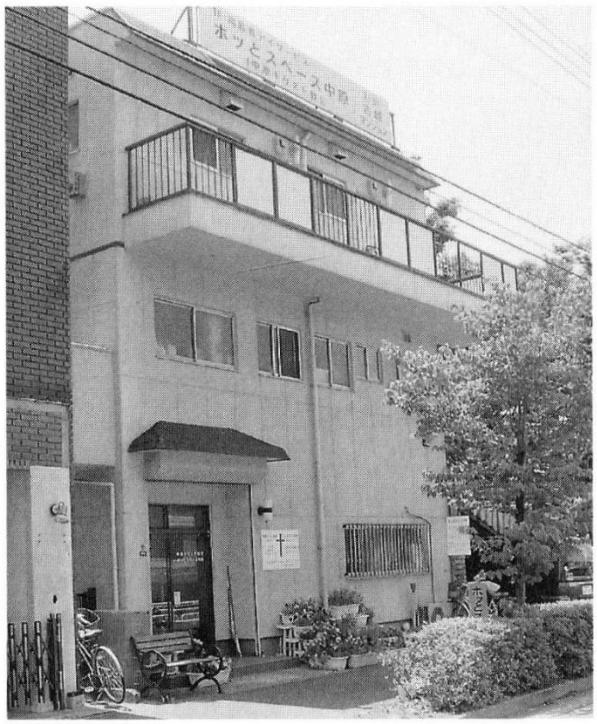
1976年、小田原ｸﾘｽﾁｬﾝｾﾝﾀｰはｺﾞｰﾄﾞﾝ&ﾙｼｰﾙ・ｼﾞｮﾝｿﾝ宣教師夫妻の信仰と祈りにより、米国ｶﾍﾞﾅﾝﾄ教会からの経済的支援を受け、建築された。当初、買い取った土地には志澤ﾃﾞﾊﾟｰﾄの古い社員寮が建てられていたが、同じ敷地内にﾌﾟﾚﾊﾌﾞを建て、ｷﾘｽﾄ教書店と英会話教室による宣教を始める。やがて近隣の教区教会、企業などでも英語ｸﾗｽが始まり、宣教が徐々に拡大されていった。80年には城山教会がｾﾝﾀｰを拠点とした開拓伝道を開始、82年には関根弘興師が就任、その後、大きく成長した。この頃、現在の敷地に3階建てﾋﾞﾙを建築するヴィジョンが与えられるが、82年1月にｺﾞｰﾄﾞﾝ・ｼﾞｮﾝｿﾝ師は突然召される。しかし、82年7月17日に工事を着工し、その年の12月15日に完成した。その後、ﾐｾｽ・ｼﾞｮﾝｿﾝ師（82年－86年）、ﾚｵﾅﾙﾄﾞ&ｸﾞﾚｰｽ・ﾋﾟｰﾀｰｿﾝ宣教師夫妻（86－89年）、ﾃﾞｲﾋﾞｯﾄ&ﾗﾅ・ﾋｭｰｽﾞｰ宣教師夫妻（89－93年）、ｷﾞｬﾘｰ&ﾎﾟﾘｰﾝ・ｶｰﾙｿﾝ宣教師夫妻（93－96年）、ﾃﾞｲﾋﾞｯﾄ&ﾗﾅ・ﾋｭｰｽﾞｰ宣教師夫妻（96－99年）、ｼｬﾝﾄﾞﾗ・ﾘﾝﾄﾞﾜｰﾑ師（99－01年）、清水康師（01年－）がﾃﾞｨﾚｸﾀｰに就任。この間、米国ｶﾍﾞﾅﾝﾄ教会から毎年、短期宣教師が来日し、ｾﾝﾀｰを拠点に献身的な奉仕を行っている。現在、教団教会の協力で英語ｸﾗｽの他に無料の英語聖書ｸﾗｽ、英語礼拝、特別集会や少年院での集会、路上生活者への援助活動、AA(ｱﾙｺｰﾙ依存症からの解放)、朝祷会、外国人のための日本語教室などにも部屋を提供している。

〒250-0045　神奈川県小田原市城山1-6-18
TEL 0465-34-2796　　FAX 0465-34-2438
E-mail occ_office@boat.zero.ad.jp
HP　http://boat.zero.ad.jp/occ_office/

ホッとスペース中原

28

教団施設





代表
佐々木 直子

沿 革

1998 年 10 月中原ｷﾘｽﾄ教会の開拓伝道と同時に、教会を使用して民間の高齢者ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ『ﾎｯとｽﾍﾟｰｽ中原』を始めました。そして 2000 年 4 月より、教団の施設として神奈川県知事の認可を受けることができ、介護保険事業所『ﾎｯとｽﾍﾟｰｽ中原』（『通所介護』『訪問介護』『居宅介護支援事業』）として再ｽﾀｰﾄしました。

老いても病気になっても、人は最後まで神様に掛け替えのない者して愛し生かされています。私たちは、高齢者と関わる中で、その存在価値を再認識し、伝えたいと願っています。ですから、日々の介護で、一人一人がその人らしく、主体的に豊かな人生が送れる様に、個別に「こうしたい」を聴くこと、援助することを大切にしています。

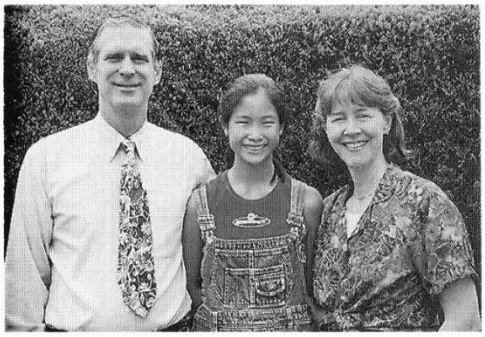
現在、地域の方々、特に、教会に近い方々から介護の依頼があります。教会が地域の資源として社会に貢献できることは何と素晴らしいことでしょうか。（申命記 15 章 7 節～ 11 節）今後もこの活動が神様に用いられるようにぜひお祈りください。

〒211-0053 神奈川県川崎市中原区上小田中5-4-2
TEL 044-777-7599　FAX 044-855-4247

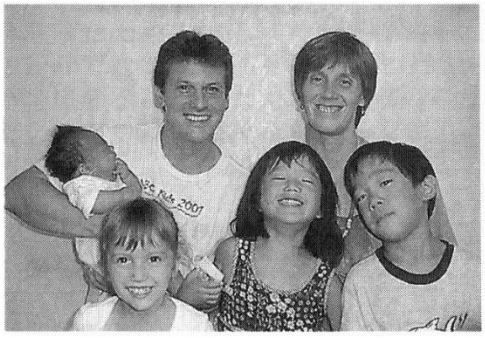
29 米国カベナント教会宣教師



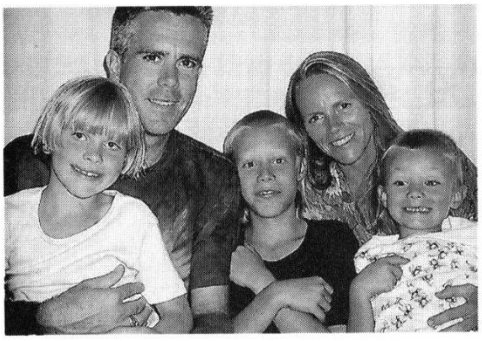
カールソン宣教師家族
（中原キリスト教会））



ヘイワース宣教師家族
（久喜めぐみキリスト教会）

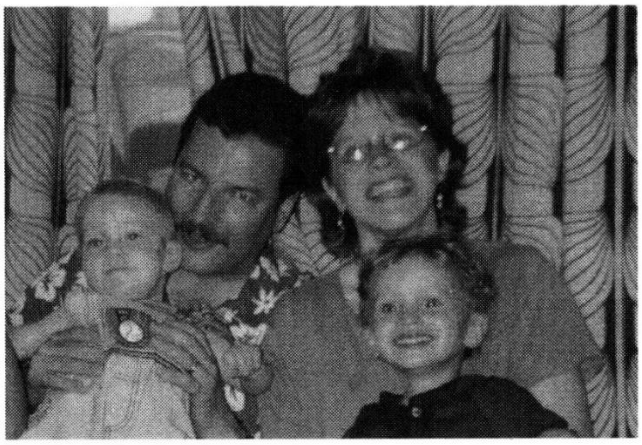


ジョンソン宣教師家族
（伊勢崎聖契キリスト教会）



ピーターソン宣教師家族
（吉岡キリスト教会）

29　米国カベナント教会宣教師



ジョンソン宣教師家族

（クリスチャン・アカデミー）



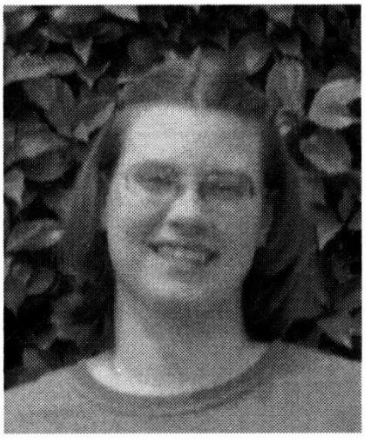
シャンドラ・リンドワーム宣教師

（一時帰国）



ローラ・アロンソン短期宣教師

（小田原クリスチャン・センター）



ヘザー・ボイ短期宣教師

（小田原クリスチャン・センター）

日本聖契キリスト教団　30



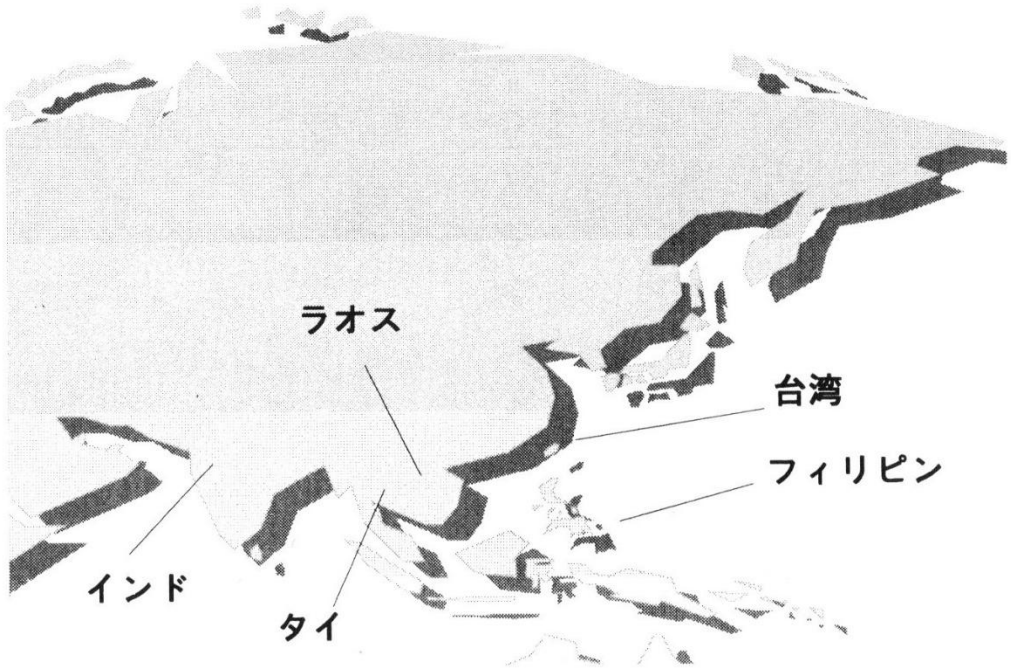
2001年度　教団責任役員

代表役員	勝本　正實	副代表役員	長谷川義信
書記役員	清水　康		
会計役員	渡辺　啓二	副会計役員	関野　祐二
派遣地代表	J・ピーターソン		

伝道委員長	関野　祐二
教育委員長	清水　康
財務委員長	渡辺　啓二
人事委員長	長谷川義信
機関紙委員長	A・ジョンソン

〒153-0061 東京都目黒区中目黒5-17-8
TEL 03-3712-8746　FAX 03-3712-8804
E-mail nskkoffice@wing.zero.ad.jp
HP　http://boat.zero.ad.jp/nskk/

31 アジアのカベナント教会



◇台湾 (Taiwan Covenant Church)
国内に31の教会があり、また、韓国、ニュージーランド、南アフリカ、アメリカ合衆国、フィリピンへの宣教活動をしています。

▶祈りの課題◀ 新しい教会の設置、都市部でのミニストリーのため。教団代表ジョン・リン師、およびその他のリーダーのために。

◇タイ (Thailand Covenant Church)
家の教会が374箇所、また、村部に住む人々の霊的な必要、健康上の必要、社会的、経済的な必要に仕えることによって地域教会を建てあげるための教会支援組織が６つできています。

▶祈りの課題◀ 新しく信仰を持った人々とその地域の人々の人生が福音によってつくりかえられるように。牧師のトンパン師、その他の教会リーダーのために。

◇ラオス

共産政府により、教会設立が禁じられているため、カベナントの教会はありませんが、北部丘陵地域の住民に福音を伝えるため、アメリカ人４名とラオスの人々９名が集まり、活動しています。

▶祈りの課題◀ ラオスの働き人が福音を分かち合う機会に恵まれるように。ラオス政府が教会設立を許可するように。

◇インド(India For Christ Ministries Covenant Church, IFCM)

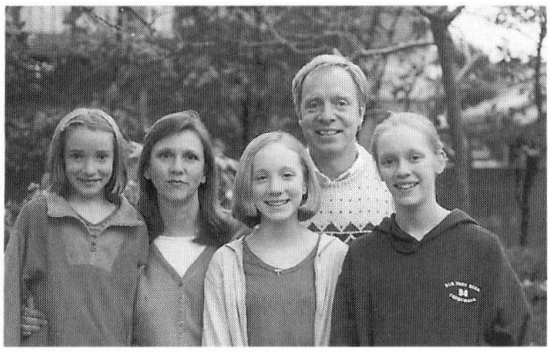
インドには100近いカベナント教会や宣教の拠点があります。

▶祈りの課題◀ 神学校、貧しい子どもたちの学校のため。牧畜により貧しい人々の自立を助けるプロジェクトのため。特に、福音が言葉と行いによって示されるように。IFCMの会長ディバクマール師のため。

◇フィリピン (The Jesus Evangelical Covenant Church of the Philipppines)

フィリピンには、新しい教会が２つあります。

▶祈りの課題◀ 新しい教会設立のために。牧畜その他による雇用促進プロジェクトのために。牧師ジュリアン・ペジ師、その他のリーダーのために。



アジア地区コーディネーター
ヒューズビー宣教師家族